

6 システム処理方式概要

6.1 帳票印刷処理方式

帳票印刷の処理方式には、オンラインによる帳票印刷と、バッチによる帳票印刷の2つの方式によって行なわれる。各帳票印刷の方式の概要について以下に示す。なお、各方式による帳票の種別は、3.7 帳票・外部ファイル一覧の帳票一覧を参照。

6.1.1 オンライン帳票印刷処理方式

オンライン帳票は、市区町村あるいは広域連合の職員が窓口端末の Web ブラウザにて画面から印刷処理を実行し、リアルタイムで印刷を行う。

「図 6-1 オンライン帳票印刷処理イメージ」に、オンライン帳票印刷処理方式のイメージを示す。

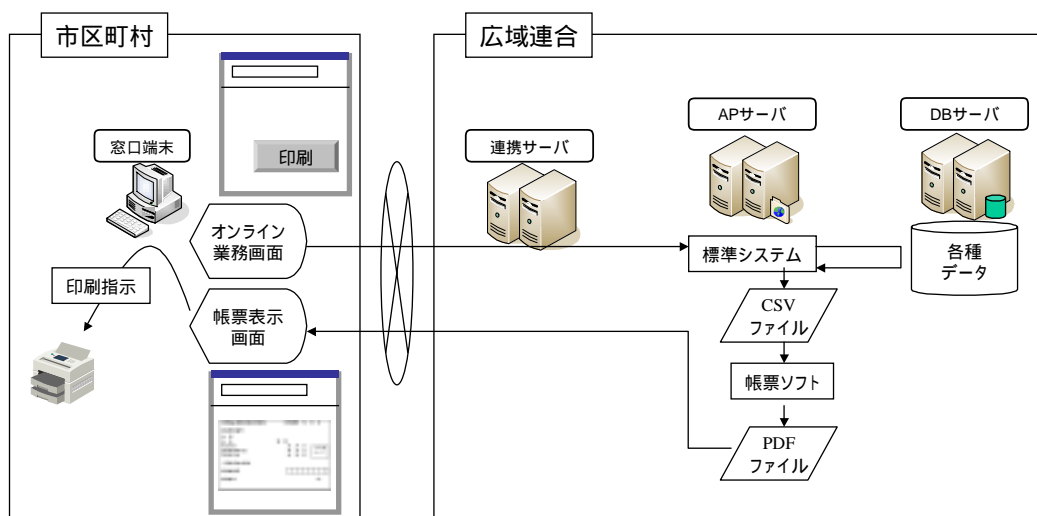


図 6-1 オンライン帳票印刷処理イメージ

職員などの利用者が、窓口端末の Web ブラウザからオンラインによる業務画面にて帳票作成を指示。

窓口端末からの帳票作成指示を受けた AP サーバは、各種データから該当する帳票を PDF ファイルで作成し、窓口端末に返信する。

AP サーバから該当する PDF ファイルの帳票を受信した窓口端末は、Web ブラウザ内に PDF ファイルを表示する。

職員などの利用者は、PDF クライアントを使用して印刷指示を行い、当該帳票を印刷することができる。

6.1.2 バッチ帳票印刷処理方式

バッチ帳票は、日次、月次及び年次など、定期的に印刷を行う場合に出力されるが、広域連合での印刷と市区町村での印刷で方式が異なる。

広域連合及び市区町村でのバッチ処理印刷処理方式を以下に示す。

(1) 広域連合による印刷

「図 6-2 広域連合におけるバッチ帳票印刷処理イメージ」に、広域連合による帳票印刷のイメージを示す。

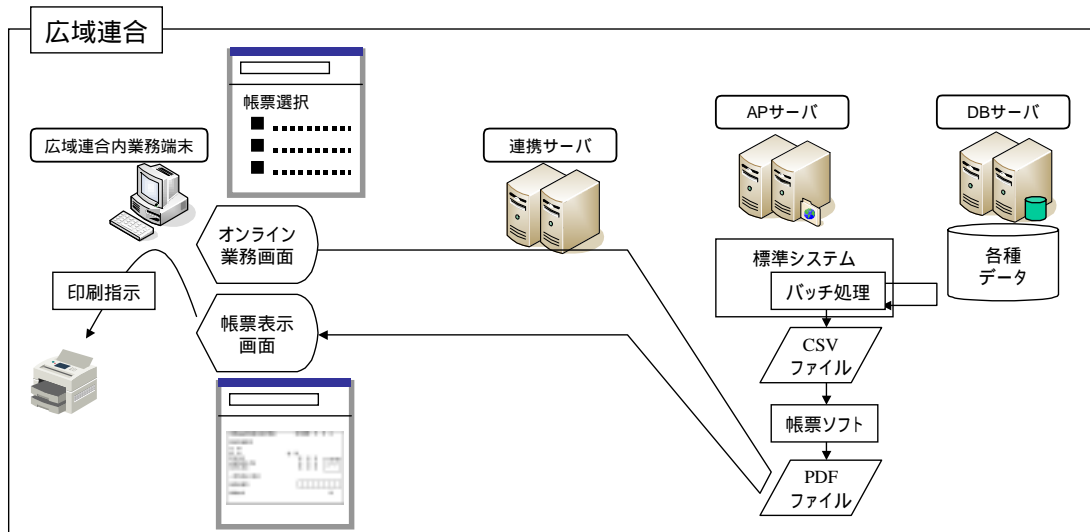


図 6-2 広域連合におけるバッチ帳票印刷処理イメージ

AP サーバのバッチ処理にて定期的に帳票出力処理が行われ、PDF ファイルにて出力される。

職員などの利用者が、広域連合内業務端末から既に作成されている帳票を選択する。

選択された帳票の PDF ファイルが、窓口端末の Web ブラウザ内に表示される。

職員などの利用者は、PDF ファイルを表示するソフト (Adobe Reader) を使用して印刷指示を行い、当該帳票を印刷することができる。

(2) 市区町村による印刷

「図 6-3 市区町村におけるバッチ帳票印刷処理イメージ」に、市区町村による帳票印刷のイメージを示す。

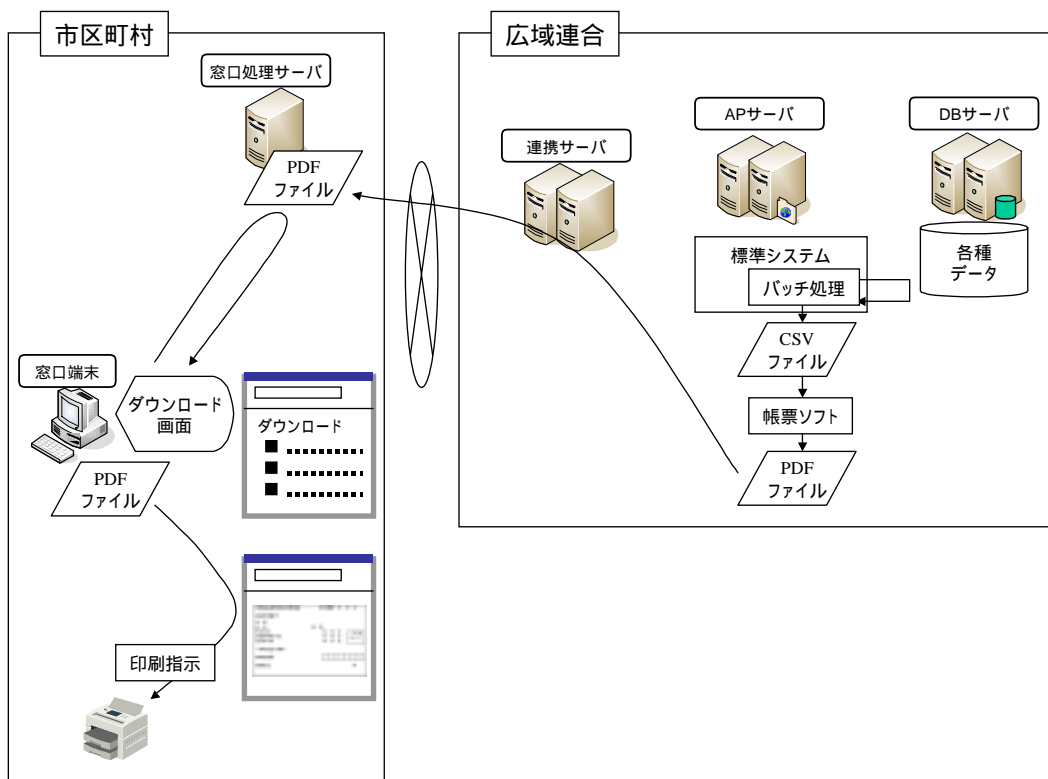


図 6-3 市区町村におけるバッチ帳票印刷処理イメージ

APサーバのバッチ処理にて定期的に帳票出力処理が行われ、PDFファイルにて出力される。

連携システムの処理により、APサーバから連携サーバを介して窓口処理サーバにPDFファイルが送信される。

職員などの利用者は、窓口端末から窓口処理サーバのPDFファイルを取得する。

職員などの利用者は、PDFファイルを表示するソフト(Adobe Reader)を使用して印刷指示を行い、当該帳票を印刷することができる。

6.2 文字処理方式

6.2.1 文字処理方式の考え方

広域連合で扱う保険者業務において、被保険者証や各種帳票への住所や氏名等の印刷は、その内容が本人を特定する手段となる意味からも市区町村で扱っている外字も含んだ形で表示がされることが望ましいと考える。ここで扱う外字については、広域連合は都道府県単位で運用されることから、単一市区町村毎に管理しているものを集約して管理することが必要になるが、外字は全市区町村で統一されておらず、さらにこれらの文字数累計は、本システムで想定している Windows の標準外字数を超えてしまうことが想定される。

一方、標準システムは、制度施行スケジュールに対して、確実なシステム稼働が必要であり、短期間の開発を行うものであることから、これまでなかったような新たな方式を取り入れることは全国での同時稼働に対してのリスクが非常に高く、また、新体系での文字体系を用意しなければならないため、市区町村の負担も大きくなると考える。

以上を踏まえて、標準システムでは以下の文字処理方式を採用する。

コード体系：UCS2 のコード領域を使用し、住基ネット統一文字コードに準じた体系を前提とした文字管理方式とする。

漢字は2バイトコードで扱う。(コード領域：0000～FFFF)

各市区町村には統一文字コードに準じた体系(21,039字)の範囲外となる外字(残存外字)が存在するが、この文字については広域連合にて文字同定の上、未使用領域(私用領域(6,400字)含む)に対しコード化し管理する。(なお、6,400文字を超える拡張可能な文字数については、現在確認中)

6.2.2 市区町村及び広域連合での作業フロー

残存外字に関わる市区町村及び広域連合での作業フローを以下に示す。

(1) 初期作業時の作業フロー

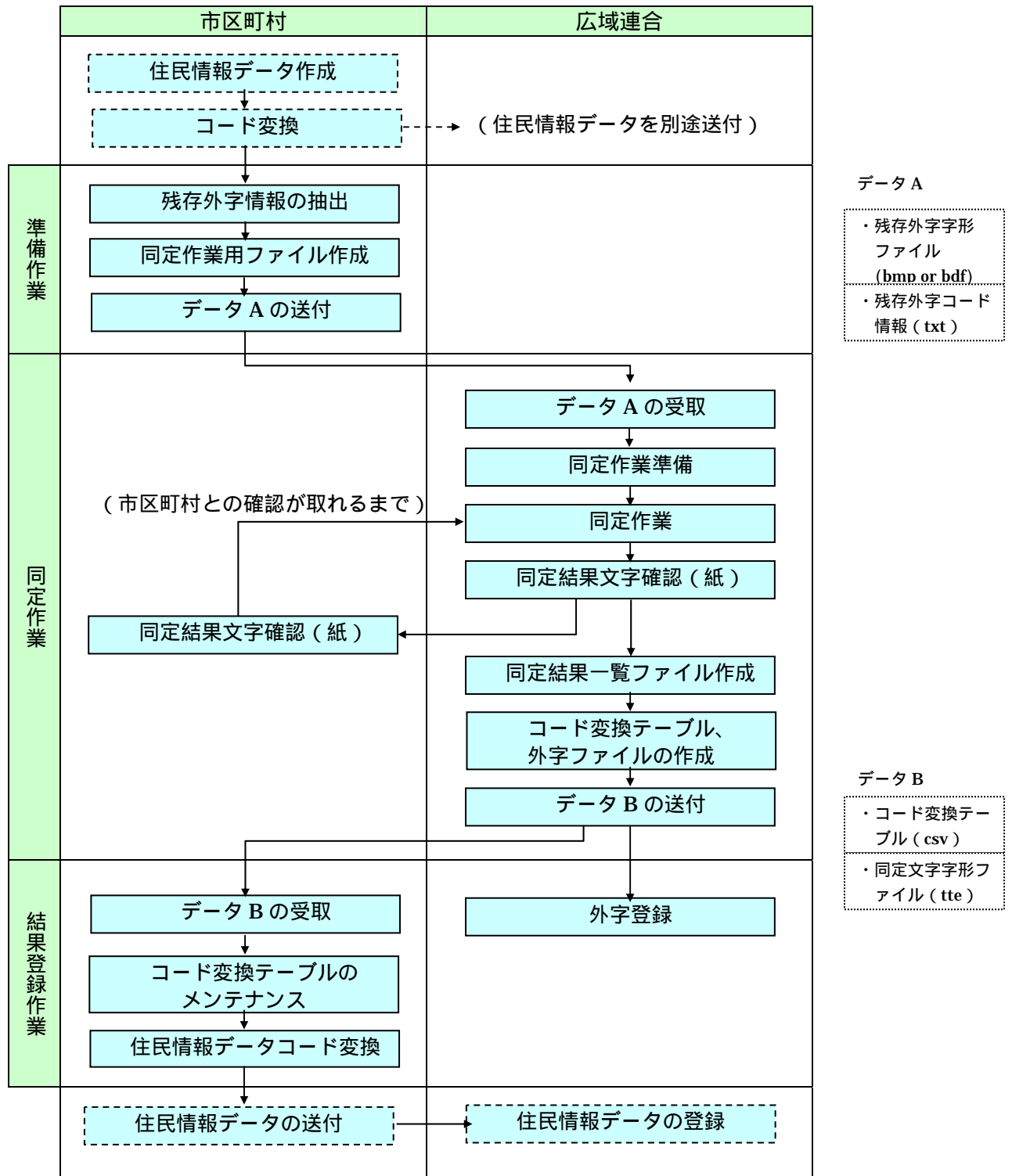


図 6-4 初期作業時の作業フロー

(2) 初期作業の詳細

表 6-1 初期作業の詳細

区分	作業項目名称 1	作業内容	備考	ツール等の利用
市区町村側				
準備作業	残存外字情報の抽出	住民情報データから残存外字情報を抽出する。		
	同定作業用ファイル作成	広域連合に送付する情報の作成。(残存外字字形ファイルのリネーム、残存外字コード情報の作成)		
	データ A の送付	広域連合にデータを送付する。	回線施設等が未完了の時は、媒体送付を想定。	
作業 同定	同定結果文字確認	同定結果を確認する。問題がある場合には、広域連合に連絡/確認を行う。		
結果登録作業	データ B の受取	広域連合からのデータを受け取る。	回線施設等が未完了の時は、媒体送付を想定	
	コード変換テーブルのメンテナンス	広域連合から受け取ったコード変換テーブルにてメンテナンスを行う。	回線施設等が未完了の時は、媒体送付を想定	
	住民情報データコード変換	住民情報データを各市区町村の既存住基コードから広域統一コードにコード変換する。		外字管理ソフト等の利用を想定
広域連合				
同定作業	データ A の受取	市区町村からのデータの受取	回線施設等が未完了の時は、媒体送付を想定	
	同定作業準備	各市区町村から送付されたデータをまとめ、配置する。		外字管理ソフト等の利用を想定
	同定作業	各市区町村から送付された残存外字と文字辞書にて、同じ字形ないかを確認する。		外字管理ソフト等の利用を想定
	同定結果文字確認	同定した結果をまとめ、各市区町村との確認、修正を行う。		外字管理ソフト等の利用を想定
	同定結果一覧ファイル作成	決定した同定結果のまとめを行う。		外字管理ソフト等の利用を想定
	コード変換テーブル、外字ファイルの作成	同定結果から、各市区町村のコード変換テーブルを作成する。 また、同定・登録した外字分の外字ファイルを作成する。		外字管理ソフト等の利用を想定
	データ B の送付	市区町村にコード変換テーブルを送付する。	回線施設等が未完了の時は、媒体送付を想定	
結果登録作業	外字登録	で作成した外字ファイルを広域連合内業務端末に登録する		外字管理ソフト等の利用を想定

1 作業項目名称内の 付番号は、「図 6-4 初期作業時の作業フロー」の 付番号を示す。

(3) 通常運用時の作業フロー

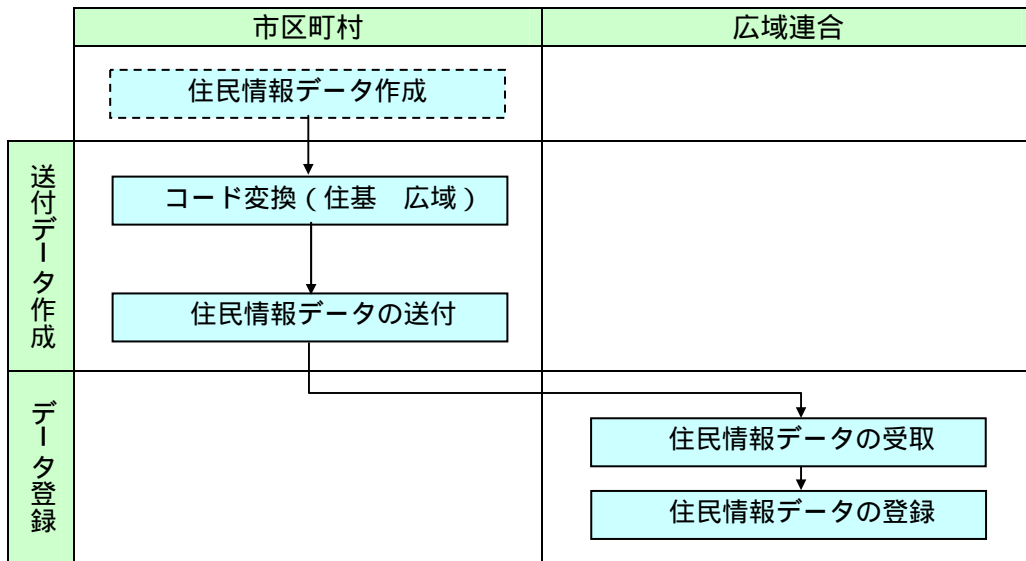


図 6 - 5 通常運用時の作業フロー

(4) 通常運用時の作業の詳細

表 6 - 2 通常運用時の作業の詳細

作業項目名称 1	作業内容	備考	ツール等の利用
市区町村側			
コード変換(住基広域)	住民情報データを各市区町村の既存住基コードから広域統一コードにコード変換する。 (新規に追加された残存外字で変換不可の場合は、“ ”に置き換えて変換する。)	新規追加の残存外字は「(1) 初期作業」の ~ の作業を行い、外字の追加が終了した後、住民情報データの” ”箇所をコード変換し、職権訂正等で再度住民情報データを送付する。	外字管理ソフト等の利用を想定
住民情報データの送付	広域連合にデータを送付する。		標準システムの連携機能
広域連合			
住民情報データの受取	市区町村からのデータの受取		標準システムの連携機能
住民情報データの登録	住民情報データの DB への登録		標準システムの連携機能

1 作業項目名称内の 付番号は、「図 6 - 5 通常運用時の作業フロー」の 付番号を示す。

6.2.3 残存外字に関わるインターフェース一覧

想定されるインターフェース一覧を以下に示す。各広域連合で採用する外字管理ツールに依存するため、調達時に確認が必要である。

(1) 残存外字入力情報 (市区町村 広域連合)

表 6-3 残存外字入力情報

No.	情報名	内容	周期	媒体	備考
1	残存外字字形ファイル	各市区町村の住基ネットで残存外字として扱われている文字の残存外字画像	セットアップ 日次	伝送 媒体	1
2	残存外字コード情報	各市区町村の送付する残存外字コードの一覧	セットアップ 日次	伝送 媒体	2

- 1 bmp または bdf ファイル。ファイル名称は、LASDEC コード(6桁)と当該残存外字の文字コードとし、1文字1ファイルで作成。
- 2 txt ファイル。複数文字1ファイルで作成。

(2) 残存外字出力情報 (広域連合 市区町村)

表 6-4 残存外字出力情報

No.	情報名称	内容	周期	媒体	備考
1	コード変換テーブル	広域文字コードと市区町村文字コードのコード変換テーブル	セットアップ 日次	伝送 媒体	1
2	同定文字字形ファイル	同定結果の文字字形を集合した Windows 標準形式の字形ファイル	セットアップ 日次	伝送 媒体	2

- 1 csv ファイル。ファイル名称は、LASDEC コード(6桁)と"henkan"で作成。
- 2 tte ファイル。ファイル名称は、LASDEC コード(6桁)で作成。

6.2.4 残存外字に関わるファイルフォーマット

想定されるファイルフォーマットを以下に示す。各広域連合で採用する外字管理ツールに依存するため、調達時に確認が必要である。

(1) 残存外字字形ファイル

画像データのためファイル項目はなし。

(2) 残存外字コード情報

表 6-5 残存外字コード情報

No.	項目名	属性	桁数	内容
1	ヘッダコード	英数	21	LASDEC コード(6 桁)、作成日(8 桁 : YYYYMMDD)、送付文字数(5 桁)の","区切り
2	市区町村文字コード	16 進数	4	各市区町村で利用されている文字コード

(3) コード変換テーブル

表 6-6 コード変換テーブル

No.	情報名称	属性	桁数	内容
1	ヘッダコード	英数	21	LASDEC コード(6 桁)、作成日(8 桁 : YYYYMMDD)、送付文字数(5 桁)の","区切り
2	広域文字コード	16 進数	4	広域連合で利用する文字コード
3	市区町村文字コード	16 進数	4	各市区町村で利用されている文字コード

(4) 同定文字字形ファイル

文字字形ファイルのためファイル項目はなし。

6.3 カスタマイズの考え方

標準システムでは、稼働後の法改正などにおけるシステムの拡張性、保守性を考慮し、原則としてカスタマイズは行わないようにすることが望ましい。標準システムにおいては、以下のような方式でのカスタマイズ対応を可能とする設計を行なっているが、広域連合やその広域連合を構成する市区町村におけるセキュリティポリシーへの対応などを考慮しつつ最低限の範囲でカスタマイズを検討していただく必要がある。

6.3.1 カスタマイズにおける名称基準

標準システムでは、一定のネーミングルールによりロードモジュールやメッセージID等の管理を行なっている。したがって、プログラムやメッセージID等を新規に追加する場合は、標準システムとファイル名等が重複しないように設定していただく必要がある。(詳細のネーミングルールなどは平成19年3月末までに提示する予定)

6.3.2 カスタマイズのパターン

パターン1 運用画面の初期設定機能による表示項目のカスタマイズ

標準システムで提供する初期設定機能により画面や帳票に出力にされる定形文や、コード、メッセージの追加、バッチパラメータなどの変更を行なう。このようなカスタマイズ可能な範囲については、標準システムで別途設定画面の提供を予定している。

パターン2 帳票のタイトル等のカスタマイズ

オンライン帳票及びバッチ帳票の様式ファイルを変更し、固定テキスト等の文字及びレイアウトの変更を行う。本カスタマイズを行なう場合は、帳票フォームを変更するための帳票開発ツールが必要となる。

パターン3 バッチ帳票レイアウトの変更や帳票出力順序のカスタマイズ

帳票出力用データファイルを使用することにより、帳票印刷プログラムの追加・変更を行う。本カスタマイズを行なう場合、バッチプログラムの開発ツールが必要となる。また、帳票出力順序などについて、バッチファイルを変更することで対応できる。なお、カスタマイズ時は処理順序により不正な結果となる場合もあるため注意が必要である。

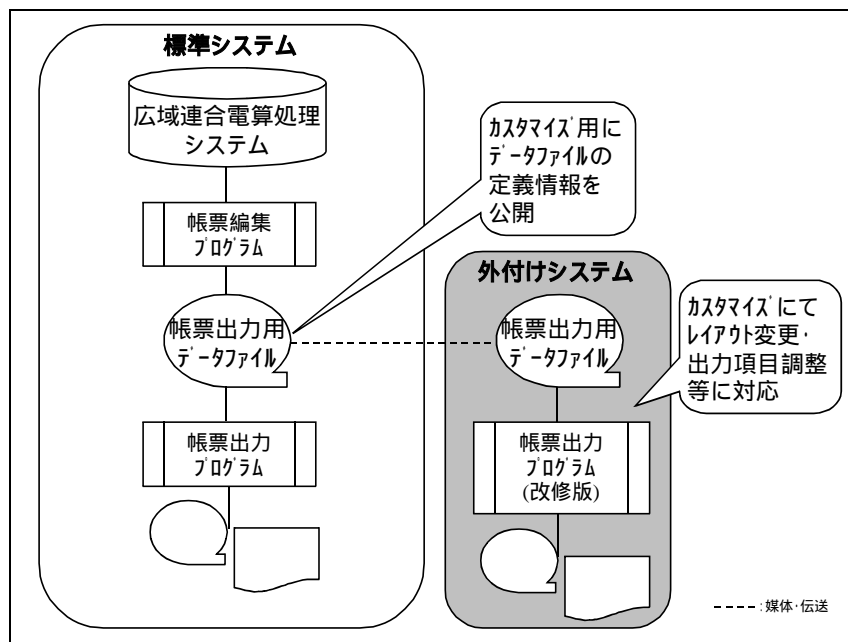


図 6-6 帳票出力用データファイルを利用した帳票カスタマイズ

パターン4 参照用のデータベースを用いた新規バッチ帳票の追加

データベースに定義した参照用テーブルを利用することにより、バッチプログラムや画面処理などを外付けで追加を行う。(統計表などの参照系処理の追加が可能)

本カスタマイズについては、標準システムで使用した開発ツールの他、Oracle等との接続が可能な開発ツールなどを広域連合で採用することが必要になる。

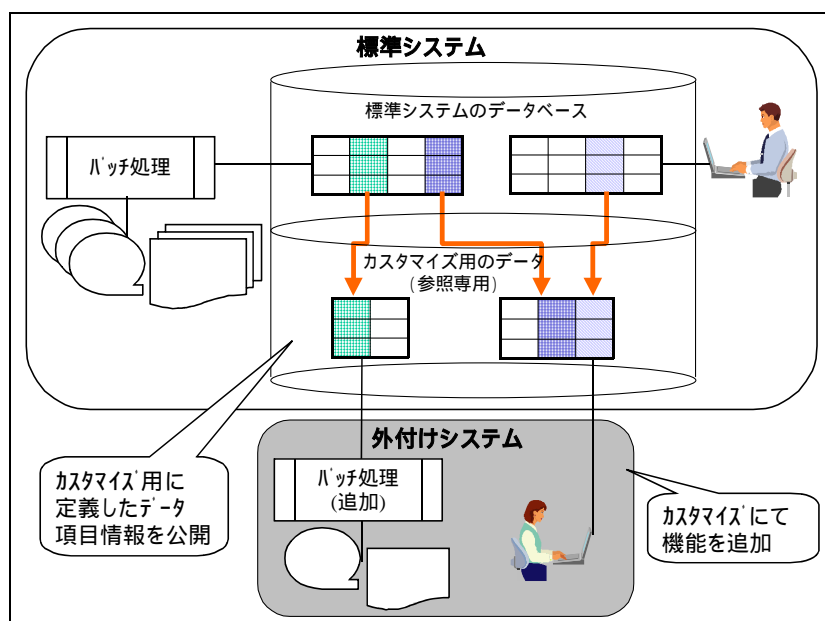


図 6-7 カスタマイズ用データの参照による機能追加カスタマイズ

パターン5 中間ファイルを編集することによる外付け計算結果の反映

バッチ処理途中の中間ファイルを抜き出し、外付けシステムにおいて編集後、再度標準システムで読み込むことで、標準システムでは対応できない任意給付などを考慮した計算結果を用いた処理を行う。
標準システム側は、バッチファイルの変更により対応が可能であるが、外付けシステムを開発するツールなどが必要になる。

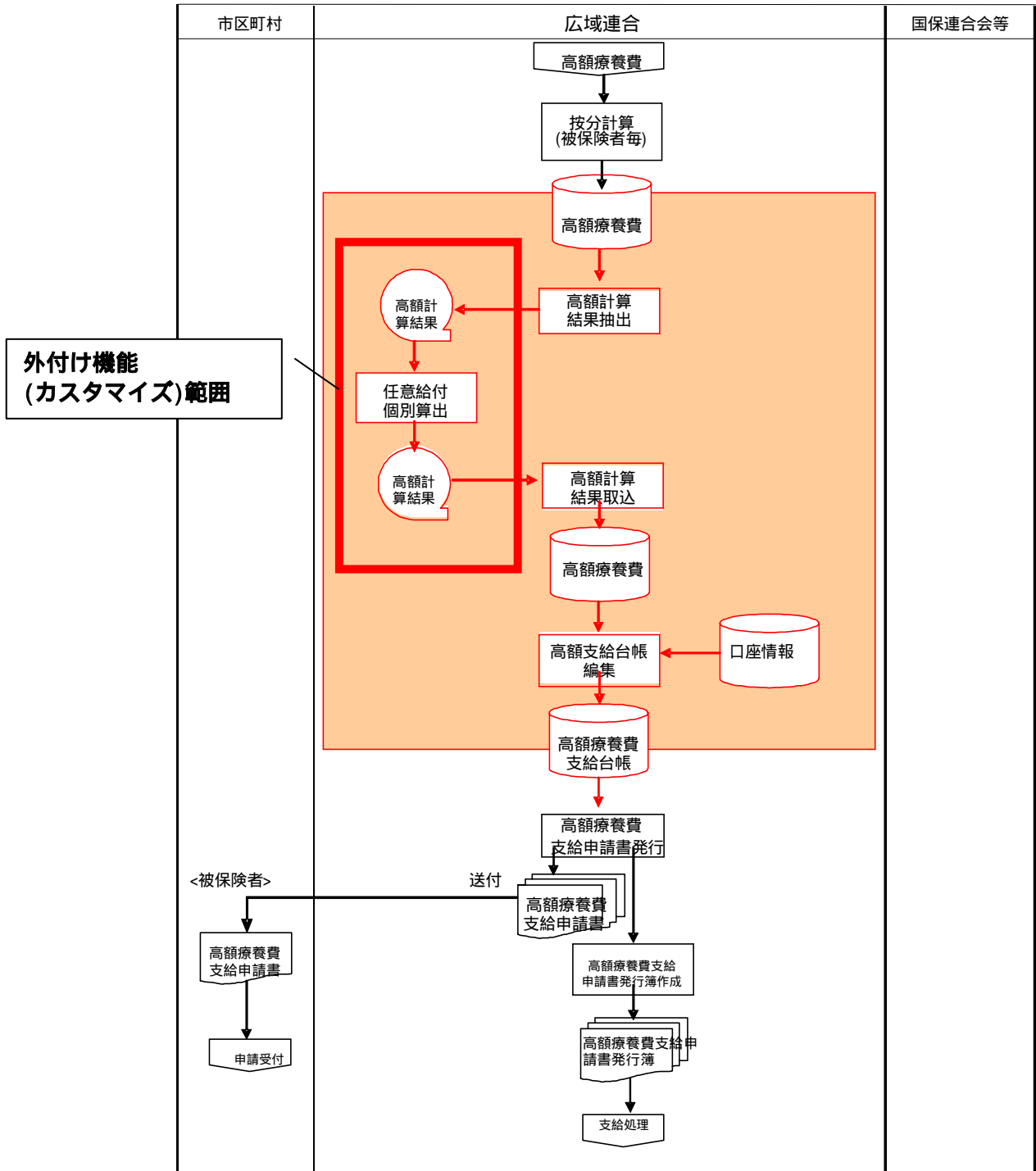


図 6-8 中間ファイルの編集を行なう場合の編集(例)

網掛け部のバッチファイルを変更し、高額計算結果抽出ファイルを一旦外に出し、任意給付分の算出結果をマージし、元に戻すように設定する。

パターン6 窓口処理サーバの集約などハードウェア等に関わるカスタマイズ

標準システムで想定する構成は、別冊の「システム構成編」で掲載されている範囲であるため、それ以外の構成で実施を検討する場合は、以下の条件に注意して実施要否を検討していただく必要がある。

(1) ハードウェアの集約などについて

- ・ 各広域連合及び市区町村において、各々のセキュリティポリシー上の問題等が解決されていること
- ・ 窓口処理サーバ等で扱われる異動データの整合性などについては、広域連合と受け渡しを行う市区町村にて担保すること
- ・ 連携システムの動作保証については、広域連合および市区町村にて行うこと(なお、LGWANを使用する場合は、窓口サーバの集約は、LGWANの制約があるため、関係機関との調整などが必要になる。)
- ・ 窓口処理サーバの筐体を複数自治体で共有する場合、連携システムのカスタマイズが必要となる可能性がある。この場合、連携システムのリコンパイル及び窓口処理サーバや連携サーバなどへのデータベース搭載なども考慮にいれ、不正登録・不正参照などを防止する配慮が必要である。また、この場合には、窓口処理サーバへのグローバルアドレスの付与や、負荷分散方法など、運用面についても十分に配慮する必要がある。

(2) 外字などについて

- ・ 標準システムでサポートする文字コード体系以外で、既に都道府県単位で同定された外字ファイルを使用する場合は、広域連合及び市区町村にて動作保証を行うこと。特にコード体系が異なる場合には、標準システムでは動作しない可能性も高いため、独自性が高くなるため、今後の保守なども含め可否について十分検討を行うこと。

7 導入作業概要

本章では、システムの準備期間に必要な作業スケジュールモデル及び、当初のデータセットアップについてのデータの受け渡しに関する規定を記載している。

7.1 導入スケジュール

別紙「付録2」に導入スケジュール案として以下を添付しているので、各広域連合での計画策定の際に参考にしていただきたい。

7.1.1 関係導入作業スケジュール(例)の取り扱い

7.1.2 広域連合電算処理システム 関係導入作業スケジュール(モデル)

- (1) 関係導入作業スケジュール(モデル)・イベント項目に関する補足一覧
- (2) 広域連合導入作業編
- (3) 市区町村導入編

7.2 セットアップスケジュールの概要

7.2.1 被保険者台帳創生にあたっての住基等情報のセットアップ

平成19年度内の被保険者台帳創生にあたっての広域連合で実施される処理は以下のスケジュール(モデル)で実施される。

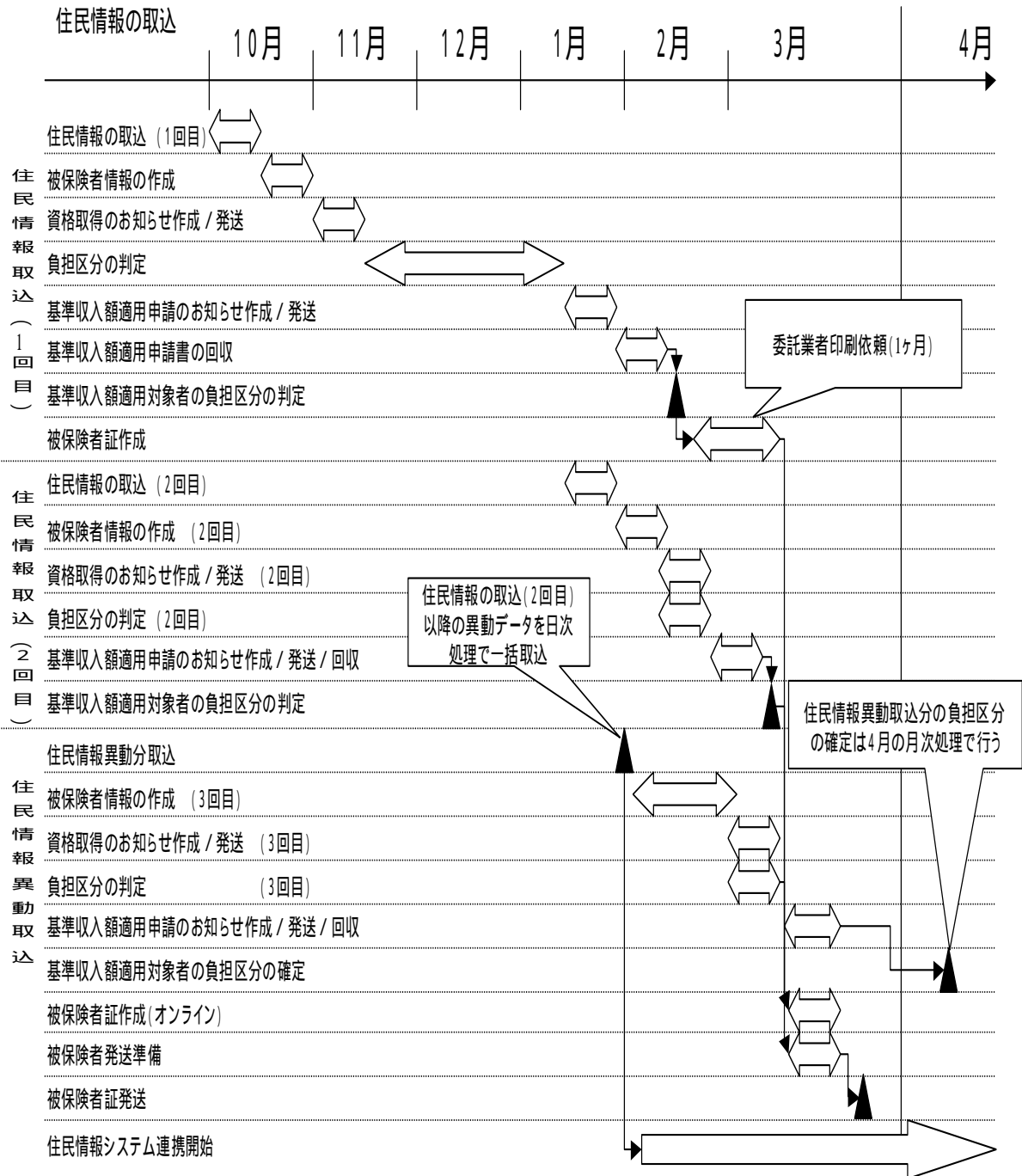


図 7-1 住基情報等のセットアップ

7.2.2 被保険者台帳創生にあたっての老人保健情報セットアップ

台帳創生に伴い、老人保健情報のセットアップは以下のスケジュール（モデル）で実施される。

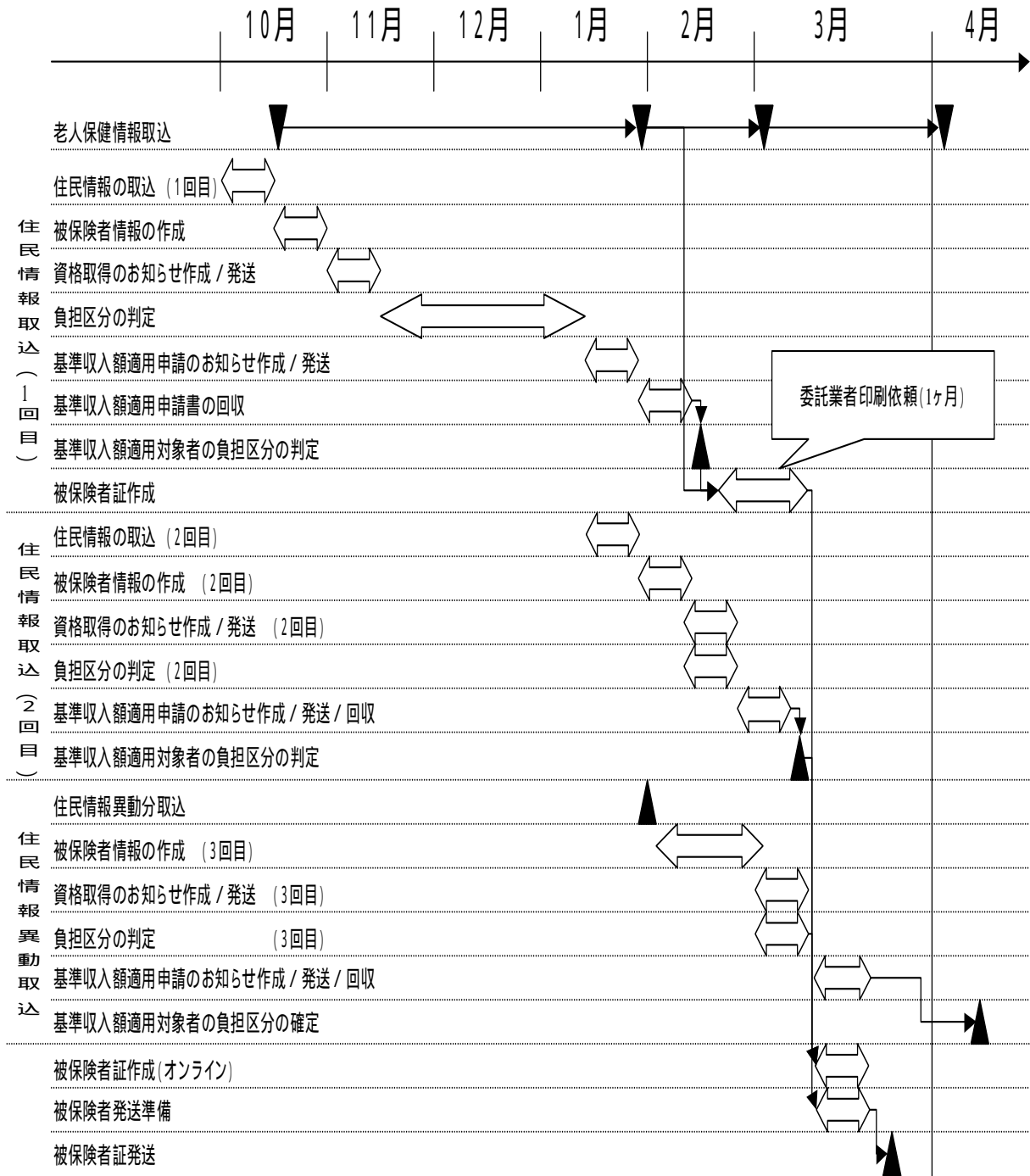


図 7-2 老人保健情報のセットアップ

7.2.3 保険料算定にあたっての所得・課税情報のセットアップ

平成19年度に行なわれる保険料仮算定に関連する広域連合及び市区町村のスケジュール(モデル)は以下のように実施される。

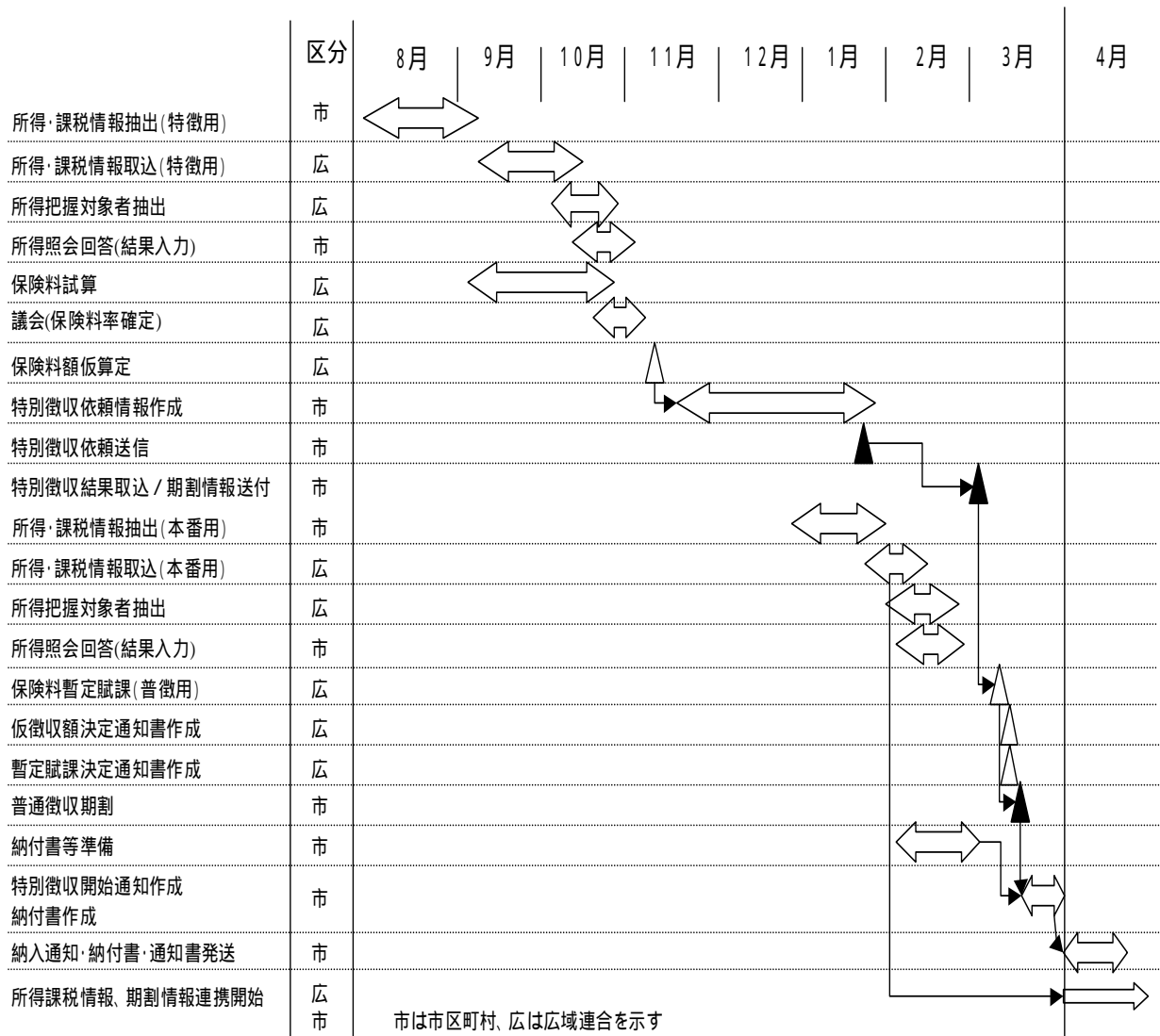


図 7-3 所得・課税情報のセットアップ

7.3 データセットアップ仕様概要

7.3.1 セットアップデータの概要

セットアップデータの抽出区分と内容を以下に示す。

表 7-1 セットアップデータ概要

No.	データの抽出区分	主な内容
1	市区町村等で作成されるデータによるセットアップ	被保険者台帳創生及び保険料仮算定に関する住基、所得、課税情報他のデータ。外字管理を行なう場合は、残存外字情報のデータ準備も対象。
2	その他の外部機関作成のデータ等によるセットアップ	L A S D E Cでの全国町・字コード、全銀協ファイルなど。

7.3.2 セットアップデータの共通インターフェース規定

セットアップデータの構造やファイル形式は、「5.1 インターフェース方式概要」及び、「5.2 交換情報の共通仕様」に準ずる。(ただし、セットアップ時は、媒体渡しによるデータ交換を想定している。)

7.4 セットアップファイル一覧

7.4.1 資格管理業務（市区町村 広域連合）

No.	情報名 (情報種別コード)	レコード長	内容	セットアップ 期限年月日	備考
1	住民基本台帳 情報 (YA1)	1280バイト	被保険者およびその世帯構成員 の住基情報（世帯単位）	1回目 平成19年10月末 2回目 平成20年1月末	1 3
2	外国人登録情報 (YA2)	1280バイト	被保険者およびその世帯構成員 の外国人登録情報（世帯単位）	1回目 平成19年10月末 2回目 平成20年1月末	1 3
3	住登外登録情報 (YA3)	1280バイト	被保険者およびその世帯構成員 の住登外登録情報（世帯単位）	1回目 平成19年10月末 2回目 平成20年1月末	1 3
4	老人保健情報 (YA4)	2110バイト	老人保健制度の情報（負担区分、 一部負担金、減免情報、特定疾 病等）	1回目 平成19年10月末 2回目 平成20年1月末 3回目 平成20年3月初 4回目 平成20年4月初	2 3

1 (1)(2)(3)については同一レイアウトとする。

セットアップ：抽出対象

平成20年7月31日までに、以下の条件に達する予定の住民情報

- ・75歳以上の被保険者となる住民および世帯構成員（世帯単位）
- ・65歳以上75歳未満で、申請により被保険者となる住民及び世帯構成員（世帯単位）
- ・65歳以上75歳未満で、障害認定者及び世帯構成員（世帯単位）

2 老人保健情報は平成20年3月末まで使用する。

3 処理日時時点で最新の情報を抽出する。

7.4.2 資格管理業務（広域連合 市区町村）

No.	情報名 (情報種別コード)	レコード長	内容	備考
1	被保険者情報 (YA5)	500バイト	後期高齢者医療の被保険者情報	1
2	被保険者証 発行用情報 (YA6)	600バイト	被保険者証、短期被保険者証、 資格証明書発行用の情報	
3	住所地特例者情報 (YA7)	500バイト	住所地特例者の情報	

1 住民票へ記載するため等に使用する。

7.4.3 賦課業務（市区町村 広域連合）

No.	情報名 (情報種別コード)	レコード長	内容	セットアップ 期限年月日	備考
1	所得・課税情報 (YB1)	600バイト	後期高齢者医療の被保険者の保険料および一部負担割合算定に必要な情報	平成19年9月末 および 平成20年1月末	1

- 1 平成20年4月からの特別徴収開始にあたり仮徴収額の算定に使用し、制度開始後の資格取得者の一部負担割合、負担区分判定に使用する。
抽出対象：平成20年7月31日までに、後期高齢者医療の被保険者となる予定者およびその構成員について相当年度2007年度分を抽出。

7.4.4 給付業務（市区町村等 広域連合）

No.	情報名 (情報種別コード)	レコード長	内容	セットアップ 期限年月日	備考
1	高額該当情報 (YD1)	100バイト	多数回判定に必要な高額該当情報	平成20年5月末	1

- 1 抽出条件：セットアップ時は、平成20年4月1日時点で受給資格を有している者、全件。

7.4.5 給付業務（保健所等 広域連合）

No.	情報名 (情報種別コード)	レコード長	内容	セットアップ 期限年月日	備考
1	医療機関等情報 (YD2)	800バイト	広域内に登録されている医療機関情報	平成20年2月末	1

- 1 詳細項目については現在検討中。
市区町村管理の施術師分（柔整、鍼灸、マッサージ）も含む。

7.4.6 共通テーブル（市区町村 広域連合）

No.	情報名 (情報種別コード)	レコード長	内容	セットアップ 期限年月日	備考
1	残存外字情報 (YZ1)	-	残存文字をイメージで送信する情報など	平成20年2月中旬	1

- 1 残存外字情報については、「6.2 文字処理方式」を参照

7.4.7 共通テーブル（外部機関 広域連合）

No.	情報名	レコード長	内容	セットアップ 期限年月日	備考
1	全国住所情報	-	全国の町・字コードに対応する住所情報。住所等の帳票への印刷などの他、カスタマバーコード表示のためのインプット情報としても利用する。	平成 19 年 9 月末	1 4
2	金融機関情報	-	金融機関コード、金融機関店舗コードに対応する金融機関名情報。振込データ作成に用いる。	平成 20 年 1 月末	2 4
3	全国自治体情報	-	全国の都道府県コード、市区町村コードに対応する名称、電話番号、住所の情報。市区町村への送付先として使用する。	平成 19 年 9 月末	3 4

- 1 LASDEC「全国町・字ファイル」全国版を購入し、作成することを想定。
- 2 全銀協「金融機関・店舗情報 CD-ROM<データ処理型 CD-ROM>」全国版を購入し作成または、同様の形式のものを広域連合で作成することを想定。
- 3 LASDEC「地方公共団体コード」をダウンロードし、作成。
- 4 詳細は現在検討中。

7.5 セットアップファイル仕様

7.5.1 住民基本台帳情報 (市区町村 広域連合)

No.	項目名	属性	桁数	バイト数	内容	必須区分 (1)	備考
1	個人区分コード	英数	1	1	1:住基 を設定する。		
2	個人番号	英数	16	16	個人を特定する番号を左詰で設定する。		
3	世帯番号	英数	16	16	世帯を特定する番号を左詰で設定する。		
4	氏名(カナ)	漢字	40	80	氏名(カナ)を全角文字で設定する。		
5	通称名(カナ)	漢字	40	80	空白を設定する。		
6	氏名(漢字)	漢字	40	80	氏名(漢字)を全角文字で設定する。		
7	通称名(漢字)	漢字	40	80	空白を設定する。		
8	本名通称名区分コード	英数	1	1	0:本名 を設定する。		
9	外国人区分コード	英数	1	1	0:日本人 を設定する。		
10	生年月日年号コード	英数	1	1	生年月日年号コードを設定する。		2
11	生年月日	英数	8	8	生年月日(西暦)を設定する。		3
12	生年月日設定フラグ	英数	1	1	生年月日が不明な場合などで便宜上の日付を設定している場合は1を、それ以外は0を設定する。		
13	性別コード	英数	1	1	1:男 2:女 3:不明 を設定する。		
14	続柄1コード	英数	2	2	続柄コードを設定する。		4
15	続柄2コード	英数	2	2	続柄コードを設定する。		4
16	続柄3コード	英数	2	2	続柄コードを設定する。		4
17	続柄4コード	英数	2	2	続柄コードを設定する。		4
18	異動年月日	英数	8	8	異動年月日(西暦)を設定する。		
19	異動届出年月日	英数	8	8	異動届を受理した日(西暦)を設定する。		
20	異動事由コード	英数	3	3	異動事由コードを設定する。		5
21	世帯登録区分コード	英数	1	1	世帯登録区分コードを設定する。		6
22	住民年月日	英数	8	8	住民となった日(西暦)を設定する。		
23	消除年月日	英数	8	8	消除された日(西暦)を設定する。		7
24	現都道府県コード	英数	2	2	現住所の都道府県コードを(LASDECコード)を設定する。		
25	現市区町村コード	英数	3	3	現住所の市区町村コード(LASDECコード)を設定する。		
26	現町名コード	英数	10	10	現住所の町名コードを設定する。		8
27	行政区コード	英数	6	6	現住所の行政区コードを設定する。		9
28	現都道府県名	漢字	4	8	現住所の都道府県名(漢字)を設定する。		

No.	項目名	属性	桁数	バイト数	内容	必須区分 (1)	備考
29	現市区町村名	漢字	12	24	現住所の市区町村（漢字）を設定する。		
30	現住所	漢字	100	200	現住所の住所（漢字）を設定する。		1 0
31	現郵便番号	英数	7	7	現住所の郵便番号を設定する。		
32	転入前都道府県コード	英数	2	2	転入前の都道府県コード（LASDECコード）を設定する。		1 1 1 2
33	転入前市区町村コード	英数	3	3	転入前の市区町村コード（LASDECコード）を設定する。		1 1 1 3
34	転入前都道府県名	漢字	4	8	転入前の都道府県名（漢字）を設定する。		1 1
35	転入前市区町村名	漢字	12	24	転入前の市区町村名（漢字）を設定する。		1 1
36	転入前住所	漢字	100	200	転入前の住所（漢字）を設定する。		1 1 1 0
37	転入前郵便番号	英数	7	7	転入前の郵便番号を設定する。		1 1
38	転出先都道府県コード	英数	2	2	転出先の都道府県コード（LASDECコード）を設定する。		1 4 1 2
39	転出先市区町村コード	英数	3	3	転出先の市区町村コード（LASDECコード）を設定する。		1 4 1 3
40	転出先都道府県名	漢字	4	8	転出先の都道府県名（漢字）を設定する。		1 4
41	転出先市区町村名	漢字	12	24	転出先の市区町村名（漢字）を設定する。		1 4
42	転出先住所	漢字	100	200	転出先の住所（漢字）を設定する。		1 4 1 0
43	転出先郵便番号	英数	7	7	転出先の郵便番号を設定する。		1 4
44	国籍コード	英数	3	3	空白を設定する。		
45	在留資格コード	英数	3	3	空白を設定する。		
46	在留開始年月日	英数	8	8	空白を設定する。		
47	在留終了年月日	英数	8	8	空白を設定する。		
48	作成年月日	英数	8	8	市区町村側のデータ作成日を設定する。		
49	作成時刻	英数	6	6	市区町村側のデータ作成時刻を設定する。		
50	予備	英数	78	78	空白を設定する。		

1 必須区分(: 必須、 : パターン毎に必須、 : 任意設定、空白 : スペース)

2 1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成 とする。

3 生年月日は実在日を設定する。

4 最大4世代設定する。2世代目以降は空白も可とする。

続柄コードの内容については「続柄コード表」を参照。

5 異動事由コードの内容については「住基異動事由コード表」を参照。

6 転居、世帯合併、世帯分離、世帯構成変更等、世帯構成を変更する場合に、

1 : 登録 を設定する。

その他の異動の場合は空白を設定する。

7 削除されている場合は必須とする。

8 町名コードの設定方法については市区町村で任意のコードを設定する。

9 行政区コードの設定方法については市区町村で任意のコードを設定する。

1 0 都道府県、市区町村名（政令指定都市の区名）を除いた住所を設定する。

1 1 転入している場合は必須とする。

- 1 2 国外の場合は「99」、不明の場合は「00」を設定する。
 1 3 国外の場合は「999」、不明の場合は「000」を設定する。
 1 4 転出している場合は必須とする。

7.5.2 外国人登録情報 (市区町村 広域連合)

No.	項目名	属性	桁数	バイト数	内容	必須区分 (1)	備考
1	個人区分コード	英数	1	1	2：外国人 を設定する。		
2	個人番号	英数	16	16	個人を特定する番号を左詰で設定する。		
3	世帯番号	英数	16	16	世帯を特定する番号を左詰で設定する。		
4	氏名(カナ)	漢字	40	80	氏名(カナ)を全角文字で設定する。		
5	通称名(カナ)	漢字	40	80	通称名(カナ)を全角文字で設定する。		2
6	氏名	漢字	40	80	氏名を全角文字で設定する。		
7	通称名	漢字	40	80	通称名を全角文字で設定する。		2
8	本名通称名区分コード	英数	1	1	0：本名 1：通称名 を設定する。		
9	外国人区分コード	英数	1	1	1：外国人 を設定する。		
10	生年月日年号コード	英数	1	1	生年月日年号コードを設定する。		3
11	生年月日	英数	8	8	生年月日(西暦)を設定する。		4
12	生年月日設定フラグ	英数	1	1	生年月日が不明な場合などで便宜上の日付を設定している場合は1を、それ以外は0を設定する。		
13	性別コード	英数	1	1	1：男 2：女 3：不明 を設定する。		
14	続柄1コード	英数	2	2	続柄コードを設定する。		5
15	続柄2コード	英数	2	2	続柄コードを設定する。		5
16	続柄3コード	英数	2	2	続柄コードを設定する。		5
17	続柄4コード	英数	2	2	続柄コードを設定する。		5
18	異動年月日	英数	8	8	異動年月日(西暦)を設定する。		
19	異動届出年月日	英数	8	8	異動届を受理した日(西暦)を設定する。		
20	異動事由コード	英数	3	3	異動事由コードを設定する。		5
21	世帯登録区分コード	英数	1	1	世帯登録区分コードを設定する。		7
22	住民年月日	英数	8	8	住民となった日(西暦)を設定する。		
23	消除年月日	英数	8	8	消除された日(西暦)を設定する。		8
24	現都道府県コード	英数	2	2	現住所の都道府県コード(LASDECコード)を設定する。		
25	現市区町村コード	英数	3	3	現住所の市区町村コード(LASDECコード)を設定する。		
26	現町名コード	英数	10	10	現住所の町名コードを設定する。		9
27	行政区コード	英数	6	6	現住所の行政区コードを設定する。		10

No.	項目名	属性	桁数	バイト数	内容	必須区分 (1)	備考
28	現都道府県名	漢字	4	8	現住所の都道府県名(漢字)を設定する。		
29	現市区町村名	漢字	12	24	現住所の市区町村(漢字)を設定する。		
30	現住所	漢字	100	200	現住所の住所(漢字)を設定する。		1 1
31	現郵便番号	英数	7	7	現住所の郵便番号を設定する。		
32	転入前都道府県コード	英数	2	2	転入前の都道府県コード(LASDECコード)を設定する。		1 2 1 3
33	転入前市区町村コード	英数	3	3	転入前の市区町村コード(LASDECコード)を設定する。		1 2 1 4
34	転入前都道府県名	漢字	4	8	転入前の都道府県名(漢字)を設定する。		1 2
35	転入前市区町村名	漢字	12	24	転入前の市区町村名(漢字)を設定する。		1 2
36	転入前住所	漢字	100	200	転入前の住所(漢字)を設定する。		1 2 1 1
37	転入前郵便番号	英数	7	7	転入前の郵便番号を設定する。		1 2
38	転出先都道府県コード	英数	2	2	転出先の都道府県コード(LASDECコード)を設定する。		1 5 1 3
39	転出先市区町村コード	英数	3	3	転出先の市区町村コード(LASDECコード)を設定する。		1 5 1 4
40	転出先都道府県名	漢字	4	8	転出先の都道府県名(漢字)を設定する。		1 5
41	転出先市区町村名	漢字	12	24	転出先の市区町村名(漢字)を設定する。		1 5
42	転出先住所	漢字	100	200	転出先の住所(漢字)を設定する。		1 5 1 1
43	転出先郵便番号	英数	7	7	転出先の郵便番号を設定する。		1 5
44	国籍コード	英数	3	3	国籍コードを設定する。		1 6
45	在留資格コード	英数	3	3	在留資格コードを設定する。		1 7
46	在留開始年月日	英数	8	8	在留開始年月日(西暦)を設定する。		1 8
47	在留終了年月日	英数	8	8	在留終了年月日(西暦)を設定する。		1 8
48	作成年月日	英数	8	8	市区町村側のデータ作成日を設定する。		
49	作成時刻	英数	6	6	市区町村側のデータ作成時刻を設定する。		
50	予備	英数	78	78	空白を設定する。		

1 必須区分(: 必須、 : パターン毎に必須、 : 任意設定、空白 : スペース)

2 本名通称名区分が「1 : 通称名」のとき必須とする。

3 1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成 とする。

4 生年月日は実在日を設定する。

5 最大4世代設定する。2世代目以降は空白も可とする。

続柄コードの内容については「続柄コード表」を参照。

6 異動事由コードの内容については「外国人異動事由コード表」を参照。

7 転居、世帯合併、世帯分離、世帯構成変更等、世帯構成を変更する場合に、

1 : 登録 を設定する。

その他の異動の場合は空白を設定する。

8 消除されている場合は必須とする。

9 町名コードの設定方法については市区町村で任意のコードを設定する。

- 10 行政区コードの設定方法については市区町村で任意のコードを設定する。
 11 都道府県、市区町村名（政令指定都市の区名）を除いた住所を設定する。
 12 転入している場合は必須とする。
 13 国外の場合は「99」、不明の場合は「00」を設定する。
 14 国外の場合は「999」、不明の場合は「000」を設定する。
 15 転出している場合は必須とする。
 16 国籍コードの設定方法については「国籍コード表」を参照。
 統計資料等に使用予定
 17 在留資格コードの内容については「外国人在留資格コード表」を参照。
 18 空白が設定されている場合、被保険者の資格取得を行う。
 日付が設定されている場合、1年未満の場合は被保険者の資格取得は行わない。
 空白を設定したが、被保険者の資格を取得させたくない場合、窓口端末より適用除外登録を行うこと。

7.5.3 住登外登録情報（市区町村 広域連合）

No.	項目名	属性	桁数	バイト数	内容	必須区分 (1)	備考
1	個人区分コード	英数	1	1	3：住登外 を設定する。		
2	個人番号	英数	16	16	個人を特定する番号を左詰で設定する。		
3	世帯番号	英数	16	16	世帯を特定する番号を左詰で設定する。		
4	氏名（カナ）	漢字	40	80	氏名（カナ）を全角文字で設定する。		
5	通称名（カナ）	漢字	40	80	通称名（カナ）を全角文字で設定する。		2
6	氏名	漢字	40	80	氏名を全角文字で設定する。		
7	通称名	漢字	40	80	通称名を全角文字で設定する。		2
8	本名通称名区分コード	英数	1	1	0：本名 1：通称名 を設定する。		
9	外国人区分コード	英数	1	1	0：日本人 1：外国人 を設定する。		
10	生年月日年号コード	英数	1	1	生年月日年号コードを設定する。		3
11	生年月日	英数	8	8	生年月日（西暦）を設定する。		4
12	生年月日設定フラグ	英数	1	1	生年月日が不明な場合などで便宜上の日付を設定している場合は1を、それ以外は0を設定する。		
13	性別コード	英数	1	1	1：男 2：女 3：不明 を設定する。		
14	続柄1コード	英数	2	2	続柄コードを設定する。		5
15	続柄2コード	英数	2	2	続柄コードを設定する。		5
16	続柄3コード	英数	2	2	続柄コードを設定する。		5
17	続柄4コード	英数	2	2	続柄コードを設定する。		5
18	異動年月日	英数	8	8	異動年月日（西暦）を設定する。		
19	異動届出年月日	英数	8	8	異動届を受理した日（西暦）を設定する。		
20	異動事由コード	英数	3	3	異動事由コードを設定する。		6
21	世帯登録区分コード	英数	1	1	世帯登録区分コードを設定する。		7
22	住民年月日	英数	8	8	住民となった日（西暦）を設定する。		
23	消除年月日	英数	8	8	消除された日（西暦）を設定する。		8

No.	項目名	属性	桁数	バイト数	内容	必須区分 (1)	備考
24	現都道府県コード	英数	2	2	現住所の都道府県コードを(LASDECコード)を設定する。		
25	現市区町村コード	英数	3	3	現住所の市区町村コード(LASDECコード)を設定する。		
26	現町名コード	英数	10	10	現住所の町名コードを設定する。		9
27	行政区コード	英数	6	6	現住所の行政区コードを設定する。		10
28	現都道府県名	漢字	4	8	現住所の都道府県名(漢字)を設定する。		
29	現市区町村名	漢字	12	24	現住所の市区町村名(漢字)を設定する。		
30	現住所	漢字	100	200	現住所の住所(漢字)を設定する。		11
31	現郵便番号	英数	7	7	現住所の郵便番号を設定する。		
32	転入前都道府県コード	英数	2	2	転入前の都道府県コード(LASDECコード)を設定する。		12 13
33	転入前市区町村コード	英数	3	3	転入前の市区町村コード(LASDECコード)を設定する。		12 14
34	転入前都道府県名	漢字	4	8	転入前の都道府県名(漢字)を設定する。		12
35	転入前市区町村名	漢字	12	24	転入前の市区町村名(漢字)を設定する。		12
36	転入前住所	漢字	100	200	転入前の住所(漢字)を設定する。		12 11
37	転入前郵便番号	英数	7	7	転入前の郵便番号を設定する。		12
38	転出先都道府県コード	英数	2	2	転出先の都道府県コード(LASDECコード)を設定する。		13 15
39	転出先市区町村コード	英数	3	3	転出先の市区町村コード(LASDECコード)を設定する。		14 15
40	転出先都道府県名	漢字	4	8	転出先の都道府県名(漢字)を設定する。		15
41	転出先市区町村名	漢字	12	24	転出先の市区町村名(漢字)を設定する。		15
42	転出先住所	漢字	100	200	転出先の住所(漢字)を設定する。		11 15
43	転出先郵便番号	英数	7	7	転出先の郵便番号を設定する。		15
44	国籍コード	英数	3	3	国籍コードを設定する。		16
45	在留資格コード	英数	3	3	在留資格コードを設定する。		17
46	在留開始年月日	英数	8	8	在留開始年月日(西暦)を設定する。		
47	在留終了年月日	英数	8	8	在留終了年月日(西暦)を設定する。		
48	作成年月日	英数	8	8	市区町村側のデータ作成日を設定する。		
49	作成時刻	英数	6	6	市区町村側のデータ作成時刻を設定する。		
50	予備	英数	78	78	空白を設定する。		

1 必須区分(: 必須、 : パターン毎に必須、 : 任意設定、空白 : スペース)

2 本名通称名区分が「1 : 通称名」のとき必須とする。

3 1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成 とする。

4 生年月日は実在日を設定する。

- 5 最大4世代設定する。2世代目以降は空白も可とする。
続柄コードの内容については「続柄コード表」を参照。
- 6 異動事由コードの内容については「住登外異動事由コード表」を参照。
- 7 転居、世帯合併、世帯分離、世帯構成変更等、世帯構成を変更する場合に、
1：登録 を設定する。
その他の異動の場合は空白を設定する。
- 8 消除されている場合は必須とする。
- 9 町名コードの設定方法については市区町村で任意のコードを設定する。
- 10 行政区コードの設定方法については市区町村で任意のコードを設定する。
- 11 都道府県、市区町村名（政令指定都市の区名）を除いた住所を設定する。
- 12 転入している場合は必須とする。
- 13 国外の場合は「99」、不明の場合は「00」を設定する。
- 14 国外の場合は「999」、不明の場合は「000」を設定する。
- 15 転出している場合は必須とする。
- 16 国籍コードの設定方法については「国籍コード表」を参照。
統計資料等に使用予定
- 17 在留資格コードの内容については「外国人在留資格コード表」を参照。

7.5.4 老人保健情報（市区町村 広域連合）

No.	項目名	属性	桁数	バリエーション数	内容	必須区分 (1)	備考
1	個人区分コード	英数	1	1	個人区分コード（1：住基 2：外国人 3：住登外）を設定する。		
2	個人番号	英数	16	16	個人を特定する番号を左詰で設定する。		
3	老人医療市区町村番号	英数	8	8	老人医療市区町村番号を設定する。		
4	老人医療受給者番号	英数	7	7	老人医療の受給者番号を設定する。		
5	公費負担者番号1	英数	8	8	公費負担者番号を設定する。		
6	公費負担医療受給者番号1	英数	7	7	公費負担医療の受給者番号を設定する。		
7	公費負担者番号2	英数	8	8	公費負担者番号を設定する。		
8	公費負担医療受給者番号2	英数	7	7	公費負担医療の受給者番号を設定する。		
9	情報有無コード（負担区分管理情報）	英数	1	1	情報の有無を表すコード（0：無し 1：有り）を設定する。		
10	負担区分決定年月日	英数	8	8	負担区分を決定した年月日（西暦）を設定する。		2
11	負担区分コード	英数	2	2	負担区分コードを設定する。		2 9
12	負担区分判定理由コード	英数	3	3	負担区分の判定理由コードを設定する。		10
13	負担区分判定理由	漢字	100	200	負担区分の判定理由を設定する。		
14	基準収入額申請年月日	英数	8	8	基準収入額申請をした年月日（西暦）を設定する。		
15	基準収入額世帯合計額	数字	13	13	基準収入額世帯の合計額を設定する。		
16	基準収入額認定年月日	英数	8	8	認定した年月日（西暦）を設定する。		19
17	基準収入額認定理由コード	英数	3	3	認定を決定した場合の理由コードを設定する。		11
18	基準収入額認定理由	漢字	100	200	認定を決定した場合の理由を設定する。		

No.	項目名	属性	桁数	バリエーション数	内容	必須区分 (1)	備考
19	情報有無コード(老齢福祉年金受給者情報)	英数	1	1	情報の有無を表すコード(0:無し 1:有り)を設定する。		
20	老齢福祉年金受給開始年月日	英数	8	8	老齢福祉年金の受給を開始した年月日(西暦)を設定する。		3
21	老齢福祉年金受給終了年月日	英数	8	8	老齢福祉年金の受給を終了した年月日(西暦)を設定する。		
22	老齢福祉年金管理番号	英数	16	16	老齢福祉年金の管理番号を設定する。		
23	老齢福祉年金その他備考	漢字	50	100	その他備考を漢字で設定する。		
24	情報有無コード(一部負担金減免情報)	英数	1	1	情報の有無を表すコード(0:無し 1:有り)を設定する。		
25	一部負担金減免申請年月日	英数	8	8	減免申請をした年月日(西暦)を設定する。		
26	一部負担金減免種類コード	英数	1	1	負担減免の種類を表すコードを設定する。		4 1 2
27	一部負担金減免決定年月日	英数	8	8	減免の措置を決定した年月日(西暦)を設定する。		4
28	一部負担金減免決定理由コード	英数	3	3	減免の申請を決定した理由を表すコードを設定する。		1 3
29	一部負担金減免決定理由	漢字	100	200	減免の申請を決定した理由を設定する。		
30	一部負担金減免発病または負傷年月日	英数	8	8	発病又は負傷の年月日(西暦)を設定する。		
31	一部負担金減免額	数字	13	13	一部負担金の減免額を設定する。		4 2 0
32	一部負担金減免率	数字	4	4	一部負担金の減免率を設定する。		4 1 7 2 0
33	情報有無コード(限度額適用・標準負担額減額認定情報)	英数	1	1	情報の有無を表すコード(0:無し 1:有り)を設定する。		
34	標準負担額減額認定申請年月日	英数	8	8	標準負担額減額認定の申請年月日(西暦)を設定する。		
35	標準負担額減額長期入院該当区分コード	英数	1	1	長期入院該当区分(0:非該当 1:該当)を設定する。		
36	標準負担額減額長期入院該当年月日	英数	8	8	長期入院の該当年月日(西暦)を設定する。		
37	標準負担額減額入院日数合計	英数	5	5	入院日数の合計を設定する。		
38	標準負担額減額認定年月日	英数	8	8	認定した年月日(西暦)を設定する。		5
39	標準負担額減額認定理由コード	英数	3	3	認定が決定であった場合の理由コードを設定する。		1 4
40	標準負担額減額認定理由	漢字	100	200	認定が決定であった場合の理由を設定する。		
41	標準負担額減額適用区分コード	英数	2	2	標準負担額減額の適用区分を設定する。		5 1 5
42	情報有無コード(特定疾病情報)	英数	1	1	情報の有無を表すコード(0:無し 1:有り)を設定する。		

No.	項目名	属性	桁数	バイト数	内容	必須区分 (1)	備考
43	特定疾病認定申請年月日	英数	8	8	特定疾病の認定申請年月日(西暦)を設定する。		
44	特定疾病名称コード	英数	3	3	疾病の名称コードを設定する。		1 6
45	特定疾病認定年月日	英数	8	8	認定した年月日(西暦)を設定する。		6
46	特定疾病認定理由	漢字	100	200	認定が決定であった場合の理由を設定する。		
47	特定疾病自己負担限度額	数字	13	13	自己負担額の限度額を設定する。		6
48	情報有無コード(障害認定申請情報)	英数	1	1	情報の有無を表すコード(0:無し 1:有り)を設定する。		
49	障害認定申請年月日	英数	8	8	申請年月日(西暦)を設定する。		
50	障害認定身体障害者手帳1級コード	英数	1	1	身体障害者手帳1級の資格有無を表すコードを設定する。		1 8
51	障害認定身体障害者手帳2級コード	英数	1	1	身体障害者手帳2級の資格有無を表すコードを設定する。		1 8
52	障害認定身体障害者手帳3級コード	英数	1	1	身体障害者手帳3級の資格有無を表すコードを設定する。		1 8
53	障害認定身体障害者手帳4級コード	英数	1	1	身体障害者手帳4級の資格有無を表すコードを設定する。		1 8
54	障害認定療育手帳A1コード	英数	1	1	療育手帳A1の資格有無を表すコードを設定する。		1 8
55	障害認定療育手帳A2コード	英数	1	1	療育手帳A2の資格有無を表すコードを設定する。		1 8
56	障害認定精神障害手帳1級コード	英数	1	1	精神障害者保健福祉手帳1級の資格有無を表すコードを設定する。		1 8
57	障害認定精神障害手帳2級コード	英数	1	1	精神障害者保健福祉手帳2級の資格有無を表すコードを設定する。		1 8
58	障害認定国民年金証書1級コード	英数	1	1	国民年金証書1級の資格有無を表すコードを設定する。		1 8
59	障害認定国民年金証書2級コード	英数	1	1	国民年金証書2級の資格有無を表すコードを設定する。		1 8
60	障害認定障害種別その他コード	英数	1	1	障害認定に関わるその他の資格有無を表すコードを設定する。		1 8
61	障害の程度	漢字	100	200	障害の程度を設定する。		
62	障害認定資格取得日	英数	8	8	障害者認定の資格を取得した日(西暦)を設定する。		7
63	障害認定資格取得理由	漢字	100	200	資格取得理由を登録する。		
64	被保険者住所地特例者区分コード	英数	1	1	被保険者が住所地特例者であることを表す有無コード(0:住所地特例対象外 1:住所地特例者)を設定する。		
65	情報有無コード(口座情報)	英数	1	1	情報の有無を表すコード(0:無し 1:有り)を設定する。		
66	金融機関種別コード	英数	1	1	1:郵便局以外 2:郵便局 を設定する。		8
67	金融機関コード	英数	4	4	金融機関コードを設定する。		8
68	金融機関支店コード	英数	3	3	金融機関支店コードを設定する。		8
69	預金種目	英数	1	1	1:普通 2:当座 を設定する。		8
70	口座番号	英数	8	8	口座番号を設定する。		8

No.	項目名	属性	桁数	バイト数	内容	必須区分 (1)	備考
71	口座名義人名(カナ)	漢字	40	80	口座名義人名(カナ)を全角文字で設定する。		8
72	予備	英数	100	100	空白を設定する。		

- 1 必須区分(: 必須、 : パターン毎に必須、 : 任意設定、空白 : スペース)
- 2 情報有無コード(負担区分管理情報)が1のとき、必須項目とする。
- 3 情報有無コード(老齢福祉年金受給者情報)が1のとき、必須項目とする。
- 4 情報有無コード(一部負担金減免情報)が1のとき、必須項目とする。
- 5 情報有無コード(限度額適用・標準負担額減額認定情報)が1のとき、必須項目とする。
- 6 情報有無コード(特定疾病情報)が1のとき、必須項目とする。
- 7 情報有無コード(障害認定申請情報)が1のとき、必須項目とする。
- 8 情報有無コード(口座情報)が1のとき、必須項目とする。
複数口座を管理している場合は、高額療養費等の振込に使用する口座を設定する。
- 9 1 1 : 低所得 (非課税) 1 2 : 低所得 (老福) 2 1 : 低所得 (非課税)
2 2 : 低所得 (税経過措置) 3 1 : 一般(基準収入額適用) 3 2 : 一般(課税)
4 1 : 所得が一定基準以上(税経過措置) 4 2 : 所得が一定基準以上 を設定する。
- 10 1 1 0 : 非課税世帯で所得が一定基準に満たないため
1 2 0 : 老齢福祉年金受給者のため
2 1 0 : 非課税世帯のため
2 2 0 : 非課税世帯のため(税経過措置)
3 1 0 : 基準収入額が適用されたため
3 2 0 : 課税世帯のため
4 1 0 : 収入が一定額を超えているため(税経過措置)
4 2 0 : 収入が一定額を超えているため を設定する。
- 1 1 0 0 1 : 収入が基準額に満たないため、9 9 9 : その他の理由による認定 を設定する。
- 1 2 1 : 一部負担金減額、2 : 一部負担金免除、3 : 一部負担金徴収猶予 を設定する。
- 1 3 0 0 1 : 災害により精神又は身体に著しい障害を受け又は資産に重大な損害を受けたため
0 0 2 : 干ばつ、冷害、凍霜雪害による農作物の不作、不漁その他これらに類する理由により収入が減少したため
0 0 3 : 事業又は業務の休廃止、失業等により収入が著しく減少したため
9 9 9 : その他の理由のため
を設定する。
- 1 4 0 0 1 : 所得が基準額未満のため、9 9 9 : その他の理由により認定 を設定する。
- 1 5 1 1 : 低所得 (非課税) 1 2 : 低所得 (老福) 2 1 : 低所得 (非課税)
2 2 : 低所得 (税経過措置) 3 1 : 一般(基準収入額適用) 3 2 : 一般(課税)
4 1 : 所得が一定基準以上(税経過措置) 4 2 : 所得が一定基準以上 を設定する。
- 1 6 0 0 1 : 人工透析が必要な慢性腎不全
0 0 2 : 先天性血液凝固因子障害の一部
0 0 3 : 血液凝固因子製剤に起因するH I V感染症
9 9 9 : その他の疾病 を設定する。
- 1 7 一部負担金減免率は、減免する割合をパーセント表記で設定する。
(例) 3割の場合、30を設定する。
- 1 8 0 : 非該当 1 : 該当 を設定する。
- 1 9 基準収入額が適用されている場合は設定する。
- 2 0 一部負担金減免額、一部負担金減免率のどちらかの項目を設定する。

7.5.5 被保険者情報 (広域連合 市区町村)

No.	項目名	属性	桁数	バイト数	内容	必須区分 (1)	備考
1	個人区分コード	英数	1	1	1:住基 2:外国人 3:住登外		
2	個人番号	英数	16	16	個人を特定する番号を左詰で設定する。		
3	被保険者番号	英数	8	8	後期高齢被保険者番号を左詰で設定する。		
4	被保険者資格取得事由コード	英数	3	3	被保険者の資格取得事由コードを設定する。		2
5	被保険者資格取得年月日	英数	8	8	資格取得年月日(西暦)を設定する。		
6	被保険者資格喪失事由コード	英数	3	3	被保険者の資格喪失事由コードを設定する。		3
7	被保険者資格喪失年月日	英数	8	8	資格喪失年月日(西暦)を設定する。		
8	保険者番号適用開始年月日	英数	8	8	適用開始年月日(西暦)を設定する。		4
9	保険者番号適用終了年月日	英数	8	8	適用終了年月日(西暦)を設定する。		4
10	氏名(カナ)	漢字	40	80	氏名(カナ)を全角文字で設定する。		
11	生年月日	英数	8	8	生年月日(西暦)を設定する。		
12	性別コード	英数	1	1	1:男 2:女 3:不明		
13	現都道府県名	漢字	4	8	現住所の都道府県名(漢字)を設定する。		
14	現市区町村名	漢字	12	24	現住所の市区町村(漢字)を設定する。		
15	現住所	漢字	100	200	現住所の住所(漢字)を設定する。		5
16	作成年月日	英数	8	8	広域連合側の作成年月日を設定する。		
17	作成時刻	英数	6	6	広域連合側の作成時刻を設定する		
18	予備	英数	94	94	空白を設定する。		

- 1 必須区分(:必須、 :パターン毎に必須、 :任意設定、空白:スペース)
- 2 資格取得事由コードの内容については「資格取得事由コード表」を参照。
- 3 資格喪失事由コードの内容については「資格喪失事由コード表」を参照。
- 4 保険者番号が市区町村単位(政令指定都市の場合は行政区単位)で異なるため、資格取得年月日、資格喪失年月日とは別項目として適用開始年月日、適用終了年月日を設定する。
- 5 都道府県、市区町村名(政令指定都市の区名)を除いた住所を設定する。

7.5.6 被保険者証発行用情報 (広域連合 市区町村)

No.	項目名	属性	桁数	バイト数	内容	必須区分 (1)	備考
1	個人区分コード	英数	1	1	個人区分コード(1:住基 2:外国人 3:住登外)を設定する。		
2	個人番号	英数	16	16	個人を特定する番号を左詰で設定する。		
3	被保険者番号	英数	8	8	被保険者番号を左詰で設定する。		
4	交付年月日	漢字	11	22	交付年月日(和暦)を設定する。		2
5	氏名(カナ)	漢字	40	80	氏名(カナ)を全角文字で設定する。		
6	氏名(漢字)	漢字	40	80	氏名(漢字)を全角文字で設定する。		
7	生年月日	漢字	11	22	生年月日(和暦)を設定する。		2
8	性別	漢字	1	2	「男」または「女」を設定する。		3
9	住所(漢字)	漢字	100	200	住所を全角文字で設定する。		
10	資格取得日	漢字	11	22	資格取得日(和暦)を設定する。		2
11	有効期限	漢字	11	22	有効期限(和暦)を設定する。		2
12	一部負担金の割合	漢字	2	4	一部負担金の割合を左詰で設定する。		
13	保険者番号	英数	8	8	保険者の番号を設定する。		
14	保険者名称(漢字)	漢字	25	50	保険者の名称を設定する。		
15	作成年月日	英数	8	8	広域連合側の作成年月日(西暦)を設定する。		
16	作成時刻	英数	6	6	広域連合側の作成時刻を設定する。		
17	予備	英数	41	41	空白を設定する。		

1 必須区分(:必須、 :パターン毎に必須、 :任意設定、空白:スペース)

2 和暦の表現方法は以下の様式とする。

例 2007/1/20日の場合 平成19年 1月20日

数字部分は全角文字とし、1桁の数字の場合は10の位を全角スペースで埋める。

なお、平成1年の場合は、「平成元年」と設定する。

3 性別不明の場合は全角スペース1文字を設定する。

7.5.7 住所地特例者情報 (広域連合 市区町村)

No.	項目名	属性	桁数	バイト数	内容	必須区分 (1)	備考
1	個人区分コード	英数	1	1	1:住基 2:外国人 3:住登外		
2	個人番号	英数	16	16	個人を特定する番号を左詰で設定する。		
3	被保険者番号	英数	8	8	被保険者番号を左詰で設定する。		
4	氏名(カナ)	漢字	40	80	氏名(カナ)を全角文字で設定する。		
5	生年月日	英数	8	8	生年月日(西暦)を設定する。		
6	性別コード	英数	1	1	1:男 2:女 3:不明		
7	住所地特例適用開始年月日	英数	8	8	住所地特例適用を開始した日を設定する。		

No.	項目名	属性	桁数	バイト数	内容	必須区分 (1)	備考
8	住所地特例適用終了年月日	英数	8	8	住所地特例適用を終了した日を設定する。		
9	現都道府県名	漢字	4	8	現住所の都道府県名(漢字)を設定する。		
10	現市区町村名	漢字	12	24	現住所の市区町村(漢字)を設定する。		
11	現住所	漢字	100	200	現住所の住所(漢字)を設定する。		2
12	作成年月日	英数	8	8	広域連合側の作成年月日を設定する。		
13	作成時刻	英数	6	6	広域連合側の作成時刻を設定する		
14	予備	英数	76	76	空白を設定する。		

1 必須区分(: 必須、 : パターン毎に必須、 : 任意設定、空白 : スペース)

2 都道府県、市区町村名(政令指定都市の区名)を除いた住所を設定する。

7.5.8 所得・課税情報 (市区町村 広域連合)

No.	項目名	属性	桁数	バイト数	内容	必須区分 (1)	備考
1	個人区分コード	英数	1	1	1:住基、2:外国人、3:住登外資格業務と同一のコード		
2	個人番号	英数	16	16	個人を特定する番号を左詰資格業務と同一の番号		
3	相当年度	英数	4	4	収録対象となる所得情報の年度(例 収録する所得情報が2006年1月から12月の所得情報である場合は「2007」を設定)		
4	異動区分コード	英数	1	1	異動区分コードを設定する 1:新規、2:変更、3:取消		
5	更正年月日	英数	8	8	賦課更正日を西暦8桁		
6	更正事由コード	英数	1	1	市区町村民税更正事由コード 1:決定、2:更正、3:取消、4:減免、0:その他		
7	課税非課税区分コード	英数	1	1	市区町村民税 1:非課税、2:課税、0:不明		
8	未申告区分	英数	1	1	0:申告有、1:未申告		
9	経過措置フラグ	英数	1	1	高齢者非課税の経過措置対象者の判断 1:非該当、2:該当		
10	旧但し書所得優先フラグ	英数	1	1	1:項14の所得情報を採用 2:項18-57の各所得額から算出した値を採用		
11	減額対象所得優先フラグ	英数	1	1	1:項15の所得情報を採用 2:項18-57の各所得額から算出した値を採用		
12	低低判定所得優先フラグ	英数	1	1	1:項16の所得情報を採用 2:項18-57の各所得額から算出した値を採用		

No.	項目名	属性	桁数	バ イ ト 数	内容	必須 区分 (1)	備考
13	一部負担割合判定所得 優先フラグ	英数	1	1	1:項 17 の所得情報を採用 2:項 18-57 の各所得額から算出した 値を採用		
14	旧ただし書所得	数字	11	11	所得割算出に使用する額		5
15	減額対象所得	数字	11	11	減額判定に使用する額		5
16	低 低 判定所得	数字	11	11	低 低 判定に使用する額		5
17	一部負担割合判定所得	数字	11	11	一部負担割合判定に使用する額		5
18	市区町村民税課税所得 (地方税法上の各種控 除後の所得)	数字	11	11			5
19	営業所得額	数字	11	11			2 3 4 5
20	農業所得額	数字	11	11	肉用牛の売却による所得を含む		2 3 4 5
21	不動産所得額	数字	11	11			2 3 4 5
22	利子所得額	数字	11	11	マイナス不可		2 3 4 5
23	配当所得額	数字	11	11	市配当控除が 1.6%の配当所得、マイ ナス不可		2 3 4 5
24	配当証券投資所得額	数字	11	11	市配当控除が 0.8%の配当所得、マイ ナス不可		2 3 4 5
25	外貨建配当所得額	数字	11	11	市配当控除が 0.4%の配当所得、マイ ナス不可		2 3 4 5
26	配当（控除無）所得額	数字	11	11	市配当控除が 0%の配当所得、マイナ ス不可		2 3 4 5
27	給与所得額	数字	11	11	マイナス不可		2 4 5
28	その他雑所得額	数字	11	11			3 5
29	雑所得合計額	数字	11	11			2 4 5
30	総合短期譲渡所得額	数字	11	11			2 3 4 5
31	総合長期譲渡所得額	数字	11	11	特別控除後 1/2 前の金額		2 3 4 5
32	一時所得額	数字	11	11	特別控除後 1/2 前の金額、マイナス 不可		2 3 4 5
33	総合譲渡一時所得額	数字	11	11			2 3 4 5
34	給与収入額	数字	11	11	マイナス不可		3 5
35	給与専従者収入額	数字	11	11	給与収入額の内数、マイナス不可		3 5
36	専従者給与額	数字	11	11	マイナス不可		3 5
37	公的年金収入額	数字	11	11	マイナス不可		3 5
38	分離短期譲渡一般所得 額	数字	11	11	特別控除前の金額		2 3 4 5
39	分離短期譲渡軽減所得 額	数字	11	11	特別控除前の金額		2 3 4 5

No.	項目名	属性	桁数	バイト数	内容	必須区分 (1)	備考
40	分離長期譲渡一般所得額	数字	11	11	特別控除前の金額		2 3 4 5
41	分離長期譲渡特定所得額	数字	11	11	特別控除前の金額		2 3 4 5
42	分離長期渡軽減所得額	数字	11	11	特別控除前の金額		2 3 4 5
43	山林所得額	数字	11	11	特別控除後の金額		2 3 4 5
44	先物取引所得額	数字	11	11			2 3 4 5
45	未公開株式譲渡所得額	数字	11	11			2 3 4 5
46	上場株式譲渡所得額	数字	11	11			2 3 4 5
47	分離短期一般特別控除額	数字	11	11	マイナス不可		2 4 5
48	分離短期軽減特別控除額	数字	11	11	マイナス不可		2 4 5
49	分離長期一般特別控除額	数字	11	11	マイナス不可		2 4 5
50	分離長期特定特別控除額	数字	11	11	マイナス不可		2 4 5
51	分離長期軽減特別控除額	数字	11	11	マイナス不可		2 4 5
52	繰越純損失額	数字	11	11	マイナス不可		2 3 4 5
53	繰越雑損失額	数字	11	11	マイナス不可		3 4 5
54	繰越株式損失額	数字	11	11	マイナス不可		2 3 4 5
55	繰越先物損失額	数字	11	11	マイナス不可		2 3 4 5
56	繰越居住用損失額	数字	11	11	マイナス不可		2 3 4 5
57	居住用損失額	数字	11	11	現年分の長期譲渡所得の内、総合分と損益通算可能な金額、マイナス不可		2 3 4 5
58	予備	英数	70	70			

1 必須区分(: 必須、 : パターン毎に必須、 : 任意設定、空白 : スペース)

2 旧ただし書所得額の算出の元となる情報

3 減額対象所得額の算出の元となる情報

4 低 低 判定所得額の算出の元となる情報

5 No. 14 ~ 17については、記入しないことも可能。この場合、No. 18 ~ 57から、所得割算出または負担区分判定に使用する所得額を算出する。

7.5.9 高額該当情報 (市区町村等 広域連合)

No.	項目名	属性	桁数	バイト数	内容	必須区分 (1)	備考
1	個人区分コード	英数	1	1	1:住基 2:外国人		
2	個人番号	英数	16	16	住基等の個人番号を左詰めで設定		
3	老人保健受給者番号	英数	7	7	左詰め7桁を数字で設定		
4	高額該当区分01	英数	1	1	2007年5月診療 該当:1、非該当:スペース		
5	高額該当区分02	英数	1	1	2007年6月診療 該当:1、非該当:スペース		
6	高額該当区分03	英数	1	1	2007年7月診療 該当:1、非該当:スペース		
7	高額該当区分04	英数	1	1	2007年8月診療 該当:1、非該当:スペース		
8	高額該当区分05	英数	1	1	2007年9月診療 該当:1、非該当:スペース		
9	高額該当区分06	英数	1	1	2007年10月診療 該当:1、非該当:スペース		
10	高額該当区分07	英数	1	1	2007年11月診療 該当:1、非該当:スペース		
11	高額該当区分08	英数	1	1	2007年12月診療 該当:1、非該当:スペース		
12	高額該当区分09	英数	1	1	2008年1月診療 該当:1、非該当:スペース		
13	高額該当区分10	英数	1	1	2008年2月診療 該当:1、非該当:スペース		
14	高額該当区分11	英数	1	1	2008年3月診療 該当:1、非該当:スペース		
15	予備	英数	57	57	空白		

1 必須区分(:必須、 :パターン毎に必須、 :任意設定、空白:スペース)

7.5.10 医療機関等情報 (保健所等 広域連合)

No.	項目名	属性	桁数	バイト数	内容	必須区分 (1)	備考
1	都道府県コード	英数	2	2			2 3
2	点数表コード	英数	1	1	1:医科、3:歯科、4:調剤、 5:施設療養費、6:訪問看護療養費、 7:柔整、8:鍼灸、9:マッサージ		2 3
3	医療機関コード	英数	7	7			2 3
4	医療機関電話番号	英数	20	20			
5	医療機関名(カナ)	英数	100	100			
6	医療機関名(漢字)	漢字	30	60			2 3
7	医療機関郵便番号	英数	7	7			
8	医療機関住所(漢字)	漢字	100	200			

No.	項目名	属性	桁数	バイト数	内容	必須区分 (1)	備考
9	金融機関コード	英数	4	4			
10	金融機関店舗コード	英数	3	3			
11	預金種別コード	英数	1	1			
12	口座番号	英数	13	1			
13	口座名義人氏名(カナ)	英数	200	200			
14	団体コード	英数	10	10	団体に所属する施術師の場合は団体コード		3
15	代表者名	漢字	30	60			
16	開設日	英数	7	7			
17	閉鎖日	英数	7	7			
18	休止開始日	英数	7	7			
19	休止終了日	英数	7	7			
20	予備	英数	88	88			

1 必須区分(: 必須、 : パターン毎に必須、 : 任意設定、空白 : スペース)

2 保険医療機関は都道府県コード、点数表コード、医療機関コード、医療機関名(漢字)を必須とする。

3 市区町村管理の施術師分(柔整、鍼灸、マッサージ)は団体については都道府県コード、点数表コード、医療機関コード、医療機関名(漢字)を必須とする。
 施術師個人については都道府県コード、点数表コード、医療機関名(漢字)を必須とし、施術師個人が団体に所属している場合は団体コードを必須とする。

7.5.1.1 外部機関作成データを使用するセットアップ(マスタ系情報)
 (1) 全国住所情報 (例 LASDEC 広域連合) 2

No.	項目名	属性	桁数	バイト数	内容	必須区分 (1)	備考
1	都道府県コード	英数	2	2	都道府県コードを設定する。		
2	市区町村コード	英数	3	3	市区町村コードを設定する。		
3	大字通称コード	英数	3	3	大字通称コードを設定する。		
4	字丁目コード	英数	3	3	字丁目コードを設定する。		
5	郵便番号	英数	7	7	郵便番号を設定する。		
6	県名なしフラグ	英数	1	1	'1': 政令指定都市、'0': 政令指定都市以外を設定する。		
7	都道府県名(カナ)	英数			都道府県名(カナ)を設定する。		
8	市区町村名(カナ)	英数			市区町村名(カナ)を設定する。		
9	大字通称名(カナ)	英数			大字通称名(カナ)を設定する。		
10	字丁目名(カナ)	英数			字丁目名(カナ)を設定する。		
11	都道府県名(漢字)	漢字			都道府県名(漢字)を設定する。		
12	市区町村名(漢字)	漢字			市区町村名(漢字)を設定する。		
13	大字通称名(漢字)	漢字			大字通称名(漢字)を設定する。		
14	字丁目名(漢字)	漢字			字丁目名(漢字)を設定する。		
15	施工年月	英数	4	4	新規に登録したデータの処理年月(西暦年後2桁+月)を設定する。		
16	廃止年月	英数	4	4	廃止した地名の廃止処理年月(西暦年後2桁+月) 現存する地名は'0000'を設定する。		
17	通り名識別コード	英数	1	1	'1': 大字通称名に通り名が入る '0': それ以外 を設定する。		
18	大字字1フラグ	英数	1	1	大字通称名に対して設定する。 '1': 先頭に「大字」を冠する '2': 先頭に「字」を冠する '3': 先頭に「小字」を冠する '0': 何も冠しない		
19	大字字2フラグ	英数	1	1	字丁目名に対して設定する。 '1': 先頭に「大字」を冠する '2': 先頭に「字」を冠する '3': 先頭に「小字」を冠する '0': 何も冠しない		

- 1 必須区分(: 必須、 : パターン毎に必須、 : 任意設定、空白 : スペース)
 2 詳細項目については現在検討中。

(2) 金融機関情報 (例 全銀協 広域連合) 2

No.	項目名	属性	桁数	バイト数	内容	必須区分 (1)	備考
1	金融機関コード	英数	4	4	金融機関コードを設定する。		
2	金融機関店舗コード	英数	3	3	店舗コードを設定する。		
3	金融機関名(カナ)	英数	60	60	金融機関名(カナ)を設定する。		
4	金融機関名(漢字)	漢字	30	60	金融機関名(漢字)を設定する。		
5	金融機関支店名(カナ)	英数	60	60	支店名(カナ)を設定する。		
6	金融機関支店名(漢字)	漢字	30	60	支店名(漢字)を設定する。		

- 1 必須区分(: 必須、 : パターン毎に必須、 : 任意設定、空白 : スペース)
 2 詳細項目については現在検討中。

(3) 全国自治体情報 (例 LASDEC 広域連合) 2

No.	項目名	属性	桁数	バイト数	内容	必須区分 (1)	備考
1	自治体都道府県コード	英数	2	2	自治体都道府県コードを設定する。		
2	自治体市区町村コード	英数	3	3	自治体市区町村コードを設定する。		
3	自治体名 (漢字)	漢字	20	40	自治体名を設定する。 (市区町村名と同じ名称)		
4	自治体電話番号	英数	20	20	自治体の代表電話番号を設定する。		
5	自治体郵便番号	英数	7	7	自治体所在地の郵便番号を設定する。		
6	自治体住所表示番号	英数	13	13	カスタマバーコードの印字データを設定する。		
7	自治体バーコードチェックデジットコード	英数	2	2	自治体住所表示番号に対するチェックデジットを設定する。		
8	自治体住所 (漢字)	漢字	60	120	自治体住所(漢字)を設定する。		

1 必須区分(: 必須、 : パターン毎に必須、 : 任意設定、空白 : スペース)

2 詳細項目については現在検討中。

7.6 その他共通テーブルの設定

広域連合もしくは、市区町村で内容を決定し、データではなく、画面等によりセットアップする情報については、主に以下のようなものを予定している。これらの情報については、標準システムにおいてサンプルデータを提供するので、必要に応じて各広域連合において修正して利用することを想定している。(詳細のセットアップ方法については、別途各バージョン配布時点までに「表 8-1 導入支援に関する予定」の導入手順書にて提示する予定である。

表 7-2 その他の設定情報

No.	情報名	内容	セットアップ 期限年月日	備考
1	定数・定率	保険料計算などに使用する料率などの定数・定率値を設定する	平成 19 年 8 月末	決定後見直し設定が必要
2	公印管理	帳票に出力する公印ファイル名と公印名を設定する(電子公印を使用する場合)	平成 19 年 8 月末	
3	連合長名	広域連合の連合長の情報(職位名や氏名)を設定する	平成 19 年 8 月末	
4	ユーザ管理	システムを使用するユーザ氏名やIDなど情報を設定する	平成 19 年 8 月末	
5	休日管理	広域連合及び金融機関の休日情報を設定する	平成 19 年 8 月末	
6	帳票固定値	帳票名称および帳票に印刷する固定値(問い合わせ先など)の情報を設定する	平成 19 年 8 月末	
7	使用権限管理	ユーザ管理に登録されたユーザのアクセス権限情報を設定	平成 19 年 8 月末	
8	自治体情報管理	広域連合内市区町村の都道府県名、市区町村名、住所等の情報を設定	平成 19 年 8 月末	

期限年月日は標準システムのテスト完了時期を目安として設定している。

8 導入支援に関する今後の対応予定について

現時点で、今後の導入にあたっての参考資料提示予定などは以下のとおり（今後、実施方法や時期などが一部変更になる可能性がある）。

表 8-1 導入支援に関する予定

No.	区分	名称・作業項目等	概要	提供予定時期
1	マニュアル・手順書等	標準システム導入手順書 (設定後チェック項目などを含む。)	AP サーバ、DB サーバ、連携サーバ設定手順	平成 19 年 6 月中旬
2			窓口処理サーバ設定手順	平成 19 年 6 月中旬
3			標準システムインストール手順	平成 19 年 6 月中旬
4			標準システム動作確認手順	平成 19 年 6 月中旬
5			データセットアップ手順	平成 19 年 6 月中旬
6		環境設定手順書 (設定後チェック項目などを含む)	データベース導入手順	平成 19 年 5 月末
7			ネットワーク設定値サンプル	平成 19 年 5 月末
8			ミドルウェア設定手順(例)	平成 19 年 5 月末
9			バックアップ設定例	平成 19 年 5 月末
10		運用手順書	バッチ処理実行、システム運用管理など(バックアップや稼働監視の考え方、例など)の標準手順	平成 19 年 6 月中旬
11		操作手順書(広域連合)	広域連合での AP サーバや端末操作など画面操作を中心としたマニュアル	平成 19 年 6 月中旬
12		操作手順書(窓口処理サーバ)	窓口処理サーバに係るデータ連携を中心とした機能マニュアル	平成 19 年 6 月中旬
13		操作手順書(窓口端末)	市区町村での窓口端末操作マニュアル	平成 19 年 6 月中旬
14		総合テスト実施済項目・運用テスト項目例	総合テストでのテスト実施項目及び運用テストでの必須実施項目	平成 19 年 5 月末
15	問合せ対応	標準システムに関するヘルプデスク	・標準システム導入・操作などについての問合せ対応 ・よくある質問などの情報提供	平成 19 年 6 月末
16	研修実施	標準システム導入・操作研修(広域連合向け)	標準システムの導入に向けての年間作業内容や留意事項及び導入期間における端末操作等についての研修(広域連合管理者及び導入ベンダ向け)	平成 19 年 6 月初旬
17		標準システム操作・運用研修(広域連合向け)	バッチ処理、端末操作及び運用管理を含む、広域連合の職員及び管理者向け研修	平成 20 年 1 月中旬
18		標準システム操作研修(市区町村向け)	市区町村向けの窓口端末及び窓口処理サーバに係る操作研修	平成 20 年 1 月中旬

主に Ver1 の内容についての提示時期を掲載している。

9 バッチ処理年間運用スケジュール(標準モデル案)

(標準システム) バッチ処理年間運用スケジュール(例)		主な業務についての月次、年次バッチ処理を記載。(随時(日次)、および運用管理系のバッチ処理(定期バックアップなど)は下記以外にも必要となる。													
実施区分	No.	対象業務	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
広域連合 (A Pサーバ)	1	資格業務	年齢到達判定 負担区分判定 証交付	年齢到達判定 負担区分判定 証交付	年齢到達判定 負担区分判定 証交付	年齢到達判定 負担区分判定 証交付	年齢更新 被保険者証交付 年齢到達判定 負担区分判定 証交付	年齢到達判定 負担区分判定 証交付	年齢到達判定 負担区分判定 証交付	年齢到達判定 負担区分判定 証交付	年齢到達判定 負担区分判定 証交付	年齢到達判定 負担区分判定 証交付	年齢到達判定 負担区分判定 証交付	年齢到達判定 負担区分判定 証交付	
	2	賦課業務	所得把握 月次更新 過年度/暫定賦課 (4月喪失分)	所得把握 月次更新	所得把握 月次更新	所得把握 月次更新	確定賦課 所得把握 月次更新	税率試算 所得把握 月次更新	所得把握 月次更新	所得把握 月次更新	所得把握 月次更新	所得把握 月次更新	所得把握 月次更新	所得把握 月次更新	暫定賦課 月次更新
	3	収納業務	決算(繰越分)	賦課整合性確認 滞納/収納チェック	決算(現年分)	年間期割取込	賦課整合性確認 滞納/収納チェック				賦課整合性確認 滞納/収納チェック				賦課整合性確認 滞納/収納チェック △
	4	給付業務	医療費通知 適時 高額取込 計算	高額取込 計算	高額取込 計算	高額取込 計算	高額取込 計算	高額取込 計算	高額取込 計算	高額取込 計算	高額取込 計算	高額取込 計算	高額取込 計算	高額取込 計算	高額取込 計算

図 9 - 1 バッチ処理運用スケジュール例

【このページは白紙】